

<令和3年度>

鳥取県文化芸術事業

評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

～ 目 次 ～

1	総合評価	1
2	実施結果概要	
(1)	実施事業一覧	2
(2)	評価の体系	2
3	事業別評価	
(1)	第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021 東部地区事業（東部地区企画運営委員会）	3
(2)	第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021 中部地区事業（中部地区企画運営委員会）	6
(3)	第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021 西部地区事業（西部地区企画運営委員会）	11
(4)	第12回とっとり伝統芸能まつり（鳥取県地域づくり推進部文化政策課）	18
(5)	第65回鳥取県美術展覧会（鳥取県地域づくり推進部文化政策課）	22
(6)	第3回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会（鳥取県地域づくり推進部文化政策課）	27
	(参考)	
	・鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿	32
	・鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告書執筆担当一覧	33
	・鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況	34
	・鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱	35

(別冊) 令和3年度 鳥取県文化芸術事業 評価報告書《資料編》

1 総合評価

【本年度の評価方法】

鳥取県のコロナ対策指針に従い、安全安心を確保した上での文化芸術事業の評価を、事業実施者の策定した行動計画に基づいて、その達成度を判断する。評価の段階は「達成」「概ね達成」「一部達成」「未達成」の4段階。それぞれ3点、2点、1点、0点と数値化し、達成度を確定する。

また、その事業の総括を行い、「成果」「課題」「その他事業に関する意見、感想」を作成し、事業の全体像を評価委員の視点で表す。

【本年度の事業評価】

・とりアート東、中、西部の地区事業（3事業）

各地区とも独自性を持ちながらの芸術活動だった。コロナ禍という芸術活動にとっては負の環境にあったが、コロナ対策を徹底され、クラスター発生を防ぎ、成功裏に事業がなされたことは大きな前進だった。

東部はとりぎん文化会館での開催だった。高校生の活躍に感動した。書道パフォーマンス、弦楽四重奏はそのレベルの高さに将来を期待する思いだった。

中部は倉吉未来中心での開催だった。多数の少年少女の活躍が目をつけた。また、地元の中高校生による管楽アンサンブルは次世代育成に向けた意欲的な取り組みだった。

西部は、キナルなんぶでの開催だった。南部町内の協力を得ながらの開催だった。西部は各地域に向かい行き、そこの人々を巻き込みながらの芸術活動をモットーとしている。南部町に伝わる神話を盛り込んだリーディング演劇が印象的だった。

・鳥取県文化政策課主催事業（とっとり伝統芸能まつり、鳥取県美術展覧会）

「とっとり伝統芸能まつり」は舞台上でもソーシャルディスタンスを徹底していた。また、各演目をコンパクトにまとめていた。また、オープニング映像は伝統芸能の発祥地へ興味を持つに十分な演出だった。今回は司会者も一人だったが、進行には問題なかったかと思う。YouTubeでの配信は効果的だった。

「鳥取県美術展覧会」は、各会場ともコロナ対策が取られていた。期間中のクラスター発生はなかった。出品数がやや下降。気になる材料だった。今後とも若い世代にとって魅力ある展覧会を模索して欲しい。

「万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会」は走り出したばかりの新鮮な事業だ。コロナ禍で苦戦はしているもののYouTube発信を駆使し、新しい発表形式を模索して欲しい。そして、まずは鳥取県内の全ての高校生が参加する大会に持ち上げてもらいたい。

【今後の評価に向けて】

令和4年度も同様な評価方法で、評価活動を行う。コロナ対策、事業への行動計画、数値目標（アンケート回収率、顧客満足度、入場者数）などである。文化芸術は「感動」を生み出し、人生を豊かにする。スタッフ、実演者、作品、どれが欠けてもいい事業は成立しない。

評価委員も日々研鑽を怠ることなく、感覚を研ぎ澄まし、評価活動にあたる。思いは事業者・評価者とも同じだと考えている。

令和4年4月
鳥取県文化芸術事業評価委員会
会長 南家 久光

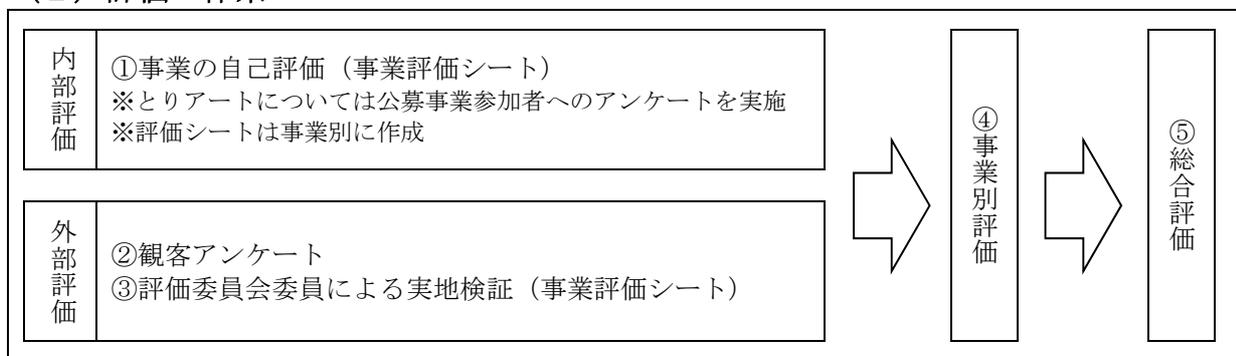
2 事業実施概要

(1) 実施事業一覧

番号	主体	団体名	事業名	実施日	実績				
					入場者数	アンケート配布数	アンケート回収数	アンケート回収率	満足度
1	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	東部地区企画運営委員会	第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021 東部地区事業	令和3年 11月13日(土)～14日(日)	1,565人	804枚	386枚	48%	95%
2		中部地区企画運営委員会	第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021 中部地区事業	令和3年 11月20日(土)～21日(日)	延べ 2,669人	1,001枚	292枚	29.2%	93.8%
3		西部地区企画運営委員会	第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021 西部地区事業	令和3年 11月20日(土)～21日(日)	344人	187枚	123枚	65.8%	96.7%
4	鳥取県	地域づくり推進部文化政策課	第12回とっとり伝統芸能まつり	令和3年 12月5日(日)	357人	357枚	250枚	70%	80.4%
5			第65回鳥取県美術展覧会	令和3年 9月18日(土)～11月23日(火)	8,507人	8,507枚	3,573枚	42%	95.2%
6			第3回万葉の郷ととっとりけん全国高校生短歌大会	令和3年 11月7日(日)	15人	15枚	13枚	87%	85%

※別途、鳥取県ミュージカル連盟（鳥取県文化団体連合会加盟団体）主催「第7回合同公演ミュージカル「雪の女王～アルマとエト」」については、西部地区における鳥取県版新型コロナウイルス警報等発令期間に伴い実施延期となったため、令和3年度事業評価の対象外とした。

(2) 評価の体系



3 事業別評価

(1) 第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021 東部地区事業(東部地区企画運営委員会)

令和3年11月13日(土)、14日(日) とりぎん文化会館

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標	行動計画	達成度及び評価理由	達成度及び評価委員からのコメント
「アート」に親しむ～環境づくり～	誰もがアートに気軽に親しむことができる機会の提供(環境づくり)	感染症対策を施し、来場者、出演者及びスタッフが安心・安全に参加できるイベントとする。	達成度：達成 【成果】 各入口で来場者の検温・消毒・連絡先記入・検温済みバンドの着用などの対策をとった。出演者・スタッフに対しても事前・当日の体調チェックを徹底した。 また、メインステージでは、着席して鑑賞できるよう客席を多数用意することで、来場者が密になる状況を回避し、ワークショップにおいても、事前予約、アクリル板の設置、共用品の消毒等、関係ガイドラインに基づいた予防対策を講じた。	達成度：達成 【成果】 何か所かある入口全てに検温・消毒・連絡先記入、検温済の来場者にリストバンドを渡し、着用を依頼するなど感染防止対策が徹底されていた。 またメインホールは密を避けるために、間隔を取って座るようになっていた。そのために収容人数が通常の席数では足らなかったため客席を多く配置するなどの工夫がなされていた。
		感染対策を施しながらより多くの方に楽しんでもらえるよう、様々なジャンルの企画を実施する。	達成度：達成 【成果】 来場者・実施者に感染対策についてご理解いただきながら、様々なジャンルのアートを提供できた。一会場で多彩なジャンルのアートを気軽に鑑賞・体験できるとりアートならではの取り組みができた。	達成度：達成 【成果】 一階から二階にかけてのアートのブース等、密を避けたブースの配置、椅子の配置がなされていた。また、消毒液も設置してあった。 多彩なワークショップが展開されていた。来場者もコロナ対策に協力しながらアートを楽しんでいる様子がかがわれた。 コンサート・展示物・ワークショップなどの様々なジャンルのアートが提供されていた。まさに、総合芸術文化祭を楽しむことが出来た。
「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～	若年層、実施者等の育成及びその活用(人材育成)	地域や教育機関と連携し、鳥取の文化芸術を担う若年層の出演・参加・来場を促進する。	達成度：達成 【成果】 小学生から大学生までのアーティストの作品を集めた鳥取の星展覧会、「和の伝承者」を集めた小ホール公演、3つの高校が一堂に会した書道パフォーマンス、鳥取西高生による弦楽四重奏など、若者たちが活躍する場を作ることができた。また、来場者アンケート結果より昨年に比べ20歳未満～30歳代の割合が16%から26.7%に増加した。	達成度：達成 【成果】 書道パフォーマンスや、弦楽四重奏はレベルの高さを感じた。来場者は若い人が目立っていた。活気を感じた。 来場者アンケートにもその数字は反映され、若年層の取り組みに成果があった。 3つの高校が一堂に会した書道パフォーマンスや、鳥取西高の弦楽四重奏など地域や教育機関との連携の成果が見られた。

		普段の活動とは違う内容に挑戦することで実施者のレベルアップを図る。	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 鳥取の星展覧会では、コーディネーターのもとアーティストが一堂に会して展示を行い、互いに刺激を与えることとなった。また、普段ソロやオーケストラで活動している学生が弦楽四重奏団を結成し演奏を披露した。これをきっかけに鳥取県文化振興財団主催のコンサートにて東京藝術大学澤学長との共演も実現した。</p> <p>【課題】 新型コロナの影響により、参加者全体会議を行わなかったことで委員会の意図が十分実施者に伝わっていない部分もあった。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 アーティストが一堂に会したこと。 ソロやオーケストラでの活動者が、四重奏を行うなどの新しいチャレンジに新鮮さがあり、実施者のレベル向上に繋がった。 とりアートでの実演はなかったものの、別の機会に澤学長との共演が実現したことはいい刺激になったと考える。</p> <p>【課題】 委員会の意図が参加者全体に十分伝わらなかったということは、まだまだ一体感を醸成するに余白があったという意味で、次回への道しるべとなった。</p>
「アート」で元気に～地域づくり～	アートによる地域の活性化（地域との連携）	郷土芸能・文化に触れる機会を提供し、地域の魅力再発見のきっかけをつくる。	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 初日、小ホールで千代南中学校、二日目フリースペースのメインステージで智頭農林高校の麒麟獅子舞を披露し、異なる形で郷土芸能の魅力を発信した。</p> <p>【課題】 今年度、郷土芸能の出演は麒麟獅子舞のみであった。これまでにとりアートで取り上げなかった郷土芸能の発掘や、演目はひとつであってもそれを更に知る・深める企画の実施など、「地域の魅力再発見」につながるような取り組みが必要である。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 麒麟獅子舞の披露は効果があったと感じる。千代南中学校は2年生が作った新聞に掲載するなど、彼らの関心が高かったことを実証している。</p> <p>【課題】 東部では麒麟獅子舞が多く、多くの県民に親しまれており、それだけでも地域の魅力発信に繋がると思う。さらに貝殻節など東部に由来する伝統芸能の発掘は、アートのすそ野拡大に期待できる。</p>
			<p>達成度集計</p>	<p>(13 / 15) ≒ 86.7%</p>

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
①アンケート回収率 (%)	40%	48.0%	44.3%
②観客満足度 (%)	95%	92.0%	92.8%
③入場者数 (名)	延べ1,500名	延べ1,565名	延べ1,800名

【自己評価総括】

○成果

- ・今年度のととりアートの企画がはじまった当初はコロナウイルス感染の状況がどうなるかわからないままはじまり、紆余曲折はしたが、臨機応変に対処し、結果的に感染防止対策の強化に繋がったように思う。
- ・高校生書道パフォーマンスは、活動する東部の3校を揃え、素晴らしい作品とパフォーマンスで来場者を魅了した。また、鳥取の星ステージ2021は、将来を期待できる「和」文化の若き継承者たちのフレッシュでレベルの高いパフォーマンスに触れる事ができ、素晴らしい内容だったと思う。
- ・若い人材の発掘、教育に関しては十分な成果が得られたと思う。生き生きとステージに臨む発表者や展示に参加した鳥取の若きアーティストの紹介は人材育成に一役買ったと思う。

○課題

- ・とりアートに、また来たいと思っていただく、ファンづくりの構築を年間を通して行いたい。
- ・若年層（主に高校生）の方たちをどのように集客するかを考える必要がある。
- ・今年度は食ブースがなかったことにより、目的のステージイベントが終わると来場者が滞在することもなく感染防止という面ではよかったが、新たな出会いや発見の機会が失われたように思う。

- ・今回も素晴らしい企画ばかりだったので、小ホールステージだけでなく、フリースペースステージや作品展示も映像に残し、とりアートホームページ等に動画掲載し、県民に向け、次年度への来場意欲を促すような取り組みも必要と感じた。
- その他事業に関する意見、感想など
 - ・委員にはそれぞれの道のスペシャリストが参加している。これだけのメンバーが企画運営を行う事業は他にないと思う。このつながりをこれからも大切につないでいけたらと思う。
 - ・来年度以降、感染症の終息状況によっては検温消毒のみで留めることも検討したい。

【委員評価総括】

○成果

- ・アンケート回収率は 48.0%（目標値 40%、達成率 120%）受付時の声掛けが功を奏した。温かい対応だった。
- ・入場者数は延べ 1,565 名（目標値延べ 1,500 名、達成率 104.3%）各関係機関との調整が底上げとなり、また、若者層への取り組みに成果があった。
- ・感染対策が万全であった。安心してアートに親しめる空間が出来上がっていた。そして、クラスター発生もなく終了した。
- ・若者たちがさまざまなジャンルのアートを展開し、新鮮さと高揚感を感じた。
- ・スタッフの方々のフットワークが良く、笑顔が目立った。
- ・鳥取の星ステージ 2021 をはじめ、若い継承者が育っている。
- ・書道パフォーマンスは迫力があつた。麒麟獅子舞は東部の代表する芸能、堪能した。
- ・会場が明るかった。（コロナ禍の暗いイメージはなく）生き生きとしていた。
- ・弦楽四重奏は聞くものを惹きつける魅力を感じた。洗練されていた。

○課題

- ・観客満足度は 92.0%（目標値 95.0%、達成率 96.8%）、前回実績が 92.8%であるためにやや横ばい状況が見て取れる。新しい企画の導入や入場者数が伸びており、総合的な点検を再度行い次回に繋げてもらいたい。
- ・メインステージで演奏されている時、他のイベントの音が重なる場面があった。また、おもちゃブースで音楽ステージの音が気になった。
- ・鳥取の星ステージで、演目ごとの合間に、少し間延び感を覚えた。工夫が必要だと感じた。
- ・制作期間の配慮がやや不足していた。
- ・来場者だけではなくコロナ禍で出かけにくい方にも配慮が欲しかった。

○その他事業に関する意見、感想など

- ・定量目標についての何らかのコメントが欲しかった。
- ・ステージの演目ごとの合間に、出演者のインタビューや出演団体紹介のビデオ放映を考えて欲しい。
- ・郷土芸能・文化についても、演目の前または後で、例えば由来や麒麟の役割など麒麟獅子舞について紹介する時間を設ける。別途映像や展示スペース空間を作る。このようにして、県民がより深く学べ・魅力再発見に繋げるような演出も期待したい。
- ・作品展の展示期間を一週間とかある一定の期間を取り展示してはどうだろうか。（もっと多くの方に見て欲しい）
- ・とりアートの二日間のイベントのダイジェスト版をネット動画配信、地元ケーブルテレビ配信を考えてみてはどうだろうか。
- ・スマホの LINE のともだち（とりアート東部）開設し、SNS での情報発信は出来ないだろうか。
- ・コロナ禍が終われば、飲食ブース復活期待。
- ・とりアート東部のコンセプト「いろいろあって、いろいろいい」をもっと表現して欲しかった。パフォーマンスがやや弱かった。
- ・パンフレットのデザインは惹きつけるものがあつた。そしてパンフレットをイメージしたファイルは思い出に残るだろう。
- ・若年者層への集客を考えると、とりアートの認知・集客のプロモーションの工夫が必要だと以下のことを提案したい。それは、新聞やテレビの媒体よりも SNS を活用する比重を上げる。イベントチラシは早い段階から用意し、演者から配布する時間的ゆとりを持つ。県のホームページからのイベントチラシが WEB で見ることは出来るが、スマホからは拡大しても文字や内容が分かりにくかった。ほとんどの人が PC よりスマホを見ているので、その機能を充実して欲しい。また、演者側も、運営委員会に丸投げではなく、個人の SNS 等で計画的に、PR 発信する回数を増やすなど、「一緒にとりアートを盛り上げていく」仕掛けや仕組みの構築を期待したい。広報費は格段に下げられると思う。
- ・弦楽四重奏のような同種団体のコラボレーションのみならず、例えば書道パフォーマンス×ピアノや、邦楽×弦楽などの異種間のコラボレーションへのチャレンジも、とりアートで鑑賞したい。
- ・東部地区が目指す「いろいろあって、いろいろいい」を強く打ち出す時が来年度からではなかろうか。新しいチャレンジは継続が必要。そのためには、演出者がそれぞれ自分たちの普段の活動成果を発表するだけではなく、その年のテーマを自分たちが創作しそれに沿ってパフォーマンスや作品に組み込むといったチャレンジ精神を実感したい。
- ・また、運営側では常に改革を実施し、マンネリ化、前例踏襲に惑わされることなく、新メンバーの養成や新しい視点の受け入れられる包容力を持った組織作りに邁進して欲しい。

(2) 第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021中部地区事業(中部地区企画運営委員会)
令和3年11月20日(土)、21日(日) 倉吉未来中心

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標	行動計画	達成度及び評価理由	達成度及び評価委員からのコメント
「アート」に親しむ～環境づくり～	だれもがアートに親しむことができる機会の提供、県民のアート活動の推進	県内の文化振興の一翼を担う文化祭として、しっかりとした感染防止対策を取り、出演者・観客が安心・安全に参加できるイベントとします。	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 コロナ禍であっても、現状で出来得る感染対策を行い、出演者・観客にもそれを理解いただき無事に開催することができた。</p> <p>●実施した主な感染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員、出演者、スタッフの事前事後の健康管理 ・観客の体温測定、手指消毒 ・客席間の距離の確保 ・入場者数の制限 ・アナウンスによる呼びかけ ・ステージ出演者は演出に応じて透明マスクやフェイスシールドの着用 ・ステージと観覧スペース間に4mの距離確保 ・希望する出演者には抗原検査の実施 	<p>達成度：達成</p> <p>【達成】 コロナ感染症防止のための対策がしっかりとなされ、安心・安全なイベント運営ができ、取組目標とした「だれもがアートに親しむことができる機会の提供、県民のアート活動の推進」が図られた。</p> <p>入場者アンケートにおいても安心してイベントに参加することができたとの声が多数寄せられた。</p>
		新型コロナ対策に応じながら「すそ野の拡大」を目指し、県民参加型文化祭として幅広いジャンルの企画を実施します。	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 新しい団体の公募参加や織物体験など、多様なアートを県民に紹介することができた。合唱、バンド、ダンス、演劇、朗読、民謡など、昨年よりも幅広い年代やジャンルのステージ発表を実施し、コロナ禍で活動機会が減りがちな出演者に発表の場を提供することができた。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 今年度は、公募による新規の団体による出演・出展等もあり常連の団体と併せて多様なジャンルのコンテンツが提供された。また、幅広い年代の出演があり県民参加型の文化祭として「すそ野の拡大」に寄与した。</p>
			<p>【課題】 新たな出演団体も出てきている一方、常連の出演団体も多く、企画としての目新しさに欠けつつある。</p>	<p>【課題】 とりアート全体のマンネリ化防止のためには、新たな団体の発掘と併せて常連の団体と他の団体とのコラボレーションなど新たな切り口を模索する取組が望まれる。</p>

「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～	鑑賞者や活動者、子ども、障がいのある人など、多様な方々の参画と育成	新型コロナ対策に応じながら、「次世代育成」のテーマのもと、次代を担う子どもたちの発表の機会を確保します。	達成度：達成 【成果】 キッズバンド、ダンス、吹奏楽、少年少女合唱団、大学生サークル、朗読劇、絵画コンクール、ステップアートなどに多くの子どもたちや若年層の参加があり、若い世代の活力を感じることができた。 特に今年度スタートさせた中部地区の中高生参加による「ウインドアカデミー@サックス」では、サックスのみの4～8人規模のアンサンブルや個人レッスンなど、部活動ではできない活動を行い、個人のレベルの向上だけではなく、発表に向けた準備においてもメンバーが主体となって活動できるように支援した。	達成度：達成 【成果】 多様な企画の中で、今回も多数の少年・少女による参画がみられ、新型コロナ感染症の蔓延で発表の場が乏しい中、子供たちの発表の機会を提供した。 中でも、今年度は事業者評価にもあるように、地元中高生による管楽アンサンブルの結成・出演など次世代育成に向けた事業者の意欲的な取組が行われたことは評価できる。
		あいサポートアートと連携し、コロナ禍にあってもアート活動を続ける障がいのある方々の発表機会を設けます。	達成度：達成 【成果】 日々アート活動に取り組む障がいのある方々の発表の機会を確保することができた。 また、新たにメインステージの手話通訳や演劇公演の要約筆記、各ブースでの筆談対応の準備などを行ったことで、より障がいのある方にも楽しんでいただけるイベントとなった。	達成度：達成 【成果】 今年度もメインステージや体験ブースにおける障がいのある方々の活動の発表や発信の機会が提供され、加えて手話通訳や演劇公演での要約筆記などの新たな取組も行われて障がいの有無にかかわらず共にアートを楽しんでもらう「とりアート中部」となった。
「アート」で元気に～地域づくり～	地域の魅力や資源の再発見、地域のアートの魅力発信	地域住民が地域の文化資源や魅力、特徴や伝統に気づくことのできる企画を盛り込みます。	達成度：一部達成 【成果】 昨年は実施が叶わなかったオープンスペースでの実施としたことで“たまたま見て触れる、良さを知る”ことができ、自分の知らなかった地域の取組や魅力あるアート活動を、幅広い世代の方に鑑賞いただくことができた。	達成度：概ね達成 【成果】 今年度は、オープンスペースのイベントが復活し、会場に賑わい感が戻った。 コロナ感染症対策のための入場者（出演者・鑑賞者）管理もしっかり行われて、行き合わせてたまたま見て触れることができるイベントとなった。
			【課題】 当初、伝統芸能の出演を検討したが、コロナの影響で叶わなかった。伝統芸能だけが地域の文化資源ではないが、伝統芸能の出演については来年度以降も企画していきたい。	【課題】 地域における伝統芸能を広く住民に知ってもらうことは意義あることであり、次年度以降も伝統芸能の出演に向けての継続した取組を期待したい。 また、伝統芸能に限らず、出演だけでなく展示や映像の活用を含めてより幅広い地域の文化資源やアートの活動についての情報発信がなされるよう望む。

	コロナ禍での新しい様式として、可能な限りの方法でイベントへアクセスできる手段を講じ、地域のアートを発信します。	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 コロナ対策として、当日は人数制限をかける企画もあったため、プレイベント、アフターイベントを実施・計画することで、よりアート体験の機会を増やすことができた。 また、昨年に続きケーブルテレビの放送も予定しており、家庭でもとりアートを楽しんでもらう機会を提供することとしている。</p> <p>【課題】 現在も Facebook 等 WEB 媒体を使っているところであるが、それらのツールをより有効活用し、地域のアートの発信に努めていく。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 当日は入場者数による制限のため、満席で鑑賞できない演目も複数みられ、プレイベントやアフターイベントも盛況でこれらのイベントを実施することによってアート体験の機会を充実することは有意義な取組であると思われる。 また、昨年に引き続き地元ケーブルビジョンを通じた放映が行われてイベントアクセスの多様化も図られた。</p> <p>【課題】 今年度の入場者アンケートの回答をみると、フェイスブック等の SNS を見て入場したと回答した者の割合は回答者の 1.8 パーセントに止まり、前年度と比しても低下している。 とりアート中部の事業者だけでなく出演者自身による SNS によるイベント情報の発信の取組を進めていくほか、より影響力のある者にプレイベントの参加を呼び掛けるなどにより、特に若い世代に訴求力のあるといわれている当該ツールの効果的な活用が望まれる。</p>
達成度集計		(14/18) ≒ 77.8%	(15/18) ≒ 83.3%

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
①アンケート回収率 (%)	45%	29.2%	46.2%
②観客満足度 (%)	90%	93.8%	93.2%
③入場者数 (名)	2,000人	のべ2,669人	のべ1,572人

【自己評価総括】

○成果

- ・2年連続コロナ禍での開催であったが、コロナ禍が拡大から収束に向かう中、各種ガイドラインを元に感染症対策に検討を重ね、より安全なイベントの開催を目指した。昨年の運営をベースに対策の強化・緩和のメリハリをつけ、例年に近い形態で実施でき、また、出演者や参加者の理解も得られ、安全に開催することができた。
- ・「中部少年少女合唱団 MIRAI」や「未来をえがこう！絵画コンクール」といった子どもたちを対象とした従来からの取組に加え、新たな育成企画として「中部ウインドアカデミー@サックス」を立ち上げ、音楽活動に取り組む子どもたちを後押しする場を設けた。中部地区委員会にも新しい委員が加わり、新たな企画提案や、公募でも新規の応募が目立ち、全体として、運営・出演者・観客それぞれにおいて子どもや学生等、多くの若年層の参画が見られた。
- ・11月の本番を核に、10月のプレイベント（さをり織り体験、クレパスアート…参加52名）や、12月のアフターイベント（らくがき大会、さをり織り体験…参加94名）を実施し、本番への機運醸成に努めたことや、コロナ禍で様々な制限がある中、アートに触れる機会を広げ、本番や次年度に繋がる取り組みとすることができた。さをり織り体験に関しては、9月に委員が織り繋いだ布や、10月のプレイベントでの製作物などを当日の会場装飾やステージタイトルに使用し、一体感や温かみを演出することができた。
- ・あいサポートアート連携では、障がい者団体のステージ出演だけではなく、展示やワークショップでも障がい者団体の出展があった。併せて、メインステージの手話通訳や演劇公演の要約筆記等、障がいのある方の鑑賞環境の整備を前進させ、障がいのある人もない人も一緒に楽しめるイベント作りができた。

○課題

- ・地域の郷土芸能に取り組む子どもたちの出演を計画したが、新型コロナの影響で活動を自粛されており、実現できなかった。今後も活動情報を収集して、次年度以降に出演鑑賞の機会を設けたい。
- ・今回初めて手話通訳や要約筆記を取り入れたが、情報を正確に伝えるために細部にわたって綿密な調整が必要なことが分かったので、次年度以降は早めに取り掛かり、事前の準備時間を十分に確保する。
- ・会館内の様々な場所で担当業務に当たる委員同士の連絡体制の整備、外部応援人員（出演団体やボランティアなど）の確保、配置の均衡化、指示系統、参加・不参加による不公平感の解消など、当日運営体制の課題を整理し、その充実と効率化を図る。
- ・メインステージ近くのワークショップでは、ステージの音で会話が聞き取りにくい場面があった。次年度以降のレイアウトに活かすと同時に、声掛けをしなくても来場者に分かりやすい案内表示を準備していく。

○その他事業に関する意見、感想など

- ・県民参加型の文化祭として、今後は障がいの有無だけでなく、LGBTへの配慮やSDGsの考え方なども取り入れていく必要がある。
- ・会場での直接鑑賞・体験を基本としつつ、新型コロナを始めとした様々な理由で会場に出向くことが難しい方にも楽しんでもらえる方法を検討していく。

【評価委員総括】

○成果

- ・定量目標とした①アンケート回収率②観客満足度③入場者数のうち、②及び③は目標を上回り、特に入場者数は昨年度を1,000人以上上回り、目標値と比しても600人を超えて従来の「とりアート中部」の賑わいが戻った感があった。
- ・メインステージはアトリウムを使ったオープンスペースでの実施としたことで、従来のようにイベントの賑わい感が醸成され、隅々行き合わせて鑑賞の機会を得るなどアートに触れる機会の拡大が図られた。
- ・常連の団体による演目には熱心なファンによる入場で満席となる状況に加え、公募による新たな団体による出演や中高生メンバーによる管楽アンサンブルの出演など事業者による次世代育成への意欲的な取組も行われ、更にはプレイベントやアフターイベントも実施されるなど、幅広いジャンルで幅広い世代の参画が図られ、多様な価値観を肌感覚で体感できる充実の「とりアート中部」となった。
- ・また、新型コロナ感染症対策もよく練られた丁寧な対応がイベントの最後まで行われ、入場者アンケート結果においても回答者の97.6%が「安心」、或いは「とても安心」と回答するなど安全・安心なイベントとなった。

○課題

- ・定量目標としたアンケート回収率は29.2パーセントで、昨年の46.2パーセントを大きく下回り、目標とした45パーセントに届かなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症は一時下火となっていたが、新たな変異株の出現による再燃の恐れなど予断を許さない状況は今後も続くものと思われる。状況によっては、今後、無観客による実施やワクチンパス等による入場者管理なども想定されることから、これらの対応を行ったうえでのイベントの実施を念頭に、様々な可能性を踏まえた準備が求められる。
- ・また、「当初、伝統芸能の出演を検討したが、コロナの影響で叶わなかった。」とのことであるが、地域の伝統芸能の継承に取り組んでおられる団体などに発表の機会を提供することは、発表者・鑑賞者双方にとって有意義なことと考えられる。地域の文化資源の発掘・継承のためにも引き続き努力をお願いしたい。

○その他事業に関する意見、感想など

- ・定量目標とした3項目のうち、アンケート回収率が目標に届かなかったことについての事業者による評価・分析がなされていない（記述がない）。事業者自らが設定した数値目標であり、数値の積算や実際のアンケート用紙の配布、回収の実態をだれよりも把握している事業者による評価の記載がないのは如何なるものであろうか。
- ・今年度事業者の支援によりスタートさせた地元中高生による「ウインドアカデミー@サックス」では、それぞれの学校の部活動ではできない活動を行い、個人の演奏レベルの向上だけではなく面的広がりにつながった有意義な取組であり、演劇など管楽以外のジャンルについて同様の取組みが広がるよう期待したい。
- ・「未来を描こう！絵画コンクール」は、テーマを「未来」と定め審査基準を公表し、作者コメントの掲出を行い、優秀作品には審査コメントを掲出するなどコンクールとしての企画・運営のレベルが高いと改めて感じた。作品も作者の思う「未来」が気持ちを含めて丁寧に描かれており、とても良いと感じた。
- ・会場で配布された袋（チラシ等が中心）に菓子が入っていたことを疑問に感じた。無料で配布することの意義必要性について精査・議論していただきたい。透明の配布された袋も不要ではないか。
- ・ステージイベントの間の時間が確保されていることは出演者には好評であったが、観客からは間隔が長いとのアンケート結果もあるので、イベントの間の時間に司会者のトークや映像の放映など観客を楽しませる一層の工夫を期待したい。
- ・入場者アンケートでスタッフの対応を評価する意見が多くあり、事前の緻密な準備を含めて運営がスムーズに行われ、皆でとりアート中部を楽しもうという雰囲気があふれていた。
- ・イベントでの出演については個別の団体がそれぞれの発表を行うだけではなく、その年のテーマを決めてそのテーマに沿った演目を入れることや常連団体同士のコラボレーションを行うなどマンネリ化を防ぐ工夫があればよいと感じた。

- ・障がいのある方の発表の場の確保が図られたほか手話通訳や演劇公演時の要約筆記などにより、より障がいのある方にも楽しんでもらえるイベントとなった。今後共生社会の実現ということを考えれば、障がいのある方とない方がコラボレーションする演目をもっと増やせないだろうか。
- ・とりアート中部の運営に新しい委員が加わり、新たな企画の提案や新規の団体の応募がなされることでより活気が出たように感じられた。今後は、運営に新しいメンバーや新しい視点（例えば民芸などの生活文化）が加わるよう配慮・工夫がなされるよう期待したい。
- ・新型コロナ感染症拡大の中で種々の活動自粛が続く中、更なる出演者確保のためには、早めの募集、講演の周知が必要である。
- ・リモートによる仕事の時代に入った今、Zoom によるイベントへの参加の企画などオンラインを活用した事業も取り入れていくことにより参加できる県民増につながるのではないだろうか。
- ・アートの持つ、心が明るくなったり、前向きになる力がより多くの人達に届くよう活用出来たら素晴らしいので、その意味でも、若い人をはじめ、より幅広く関心が持て、参加しやすくなるような『多様なステージ』（企画）イベントがあると良い。
- ・事前の打ち合わせで決めたことが、現場担当のスタッフに伝わっていない場面もあった。連絡と周知の徹底をお願いしたい。
- ・「のぞいてみよう！コレペティトゥアのお仕事～」では、とても力のある梁川夏子氏による公開レッスンが興味深いものであったが、次の点で準備不足を感じた。
 - ①公開レッスンに必要な楽譜が数部しか用意してなく途中でスタッフがコピーされていた。また、季節柄天候によってはブーツや長靴などで来場する方もあり、会場に養生シートがあればよかった。
 - ②解説の途中からハンドマイクが使用されたが、解説する方の声がよく聞こえるようマイクを最初から準備いただけるとよかった。また、他の出演者同士によるマイクの持ち回し使用もあり、消毒などの感染症対策の徹底も必要と感じた。

(3) 第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021西部地区事業(西部地区企画運営委員会)
令和3年11月20日(土)、21日(日) キナル南部

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標	行動計画	達成度及び評価理由	達成度及び評価委員からのコメント
「アート」に親しむ ～環境づくり～	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	<p>【地域巡回による地域全体でのアートに関わる環境づくり】</p> <p>▼</p> <p>「待つ」のではなく「迎えに行く」ような積極的姿勢で、西部地域全域の住民誰もが気軽に文化芸術活動に関われる機会を提供するため、地域内を巡回していく。今年は『南部町』を舞台に、地域の特性を活かしつつ、行政や地域で活動する方々との連携を図り、参加を促す。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>会場となった「キナルなんぶ」をはじめ、南部町、青年団、地域おこし協力隊などの町内の方からの協力を得られたことで、南部町の特徴「神話のふるさと」に合わせた企画を、南部町に新たにできた施設「キナルなんぶ」で開催でき、地域の特性、連携を具体化できた。</p> <p>会場の特性上広域にわたっての周知は難しくも、地域住民・行政との連携に繋がり、市部だけでなく郡部にもアートを広めるきっかけになった。スタッフ、出演者として関わってくださった南部町の方から様々なアイデアをいただいたことにより、南部町の特徴を生かし南部町の魅力を伝える催しとなった。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>神話を盛り込んだリーディング演劇や南部町の風景写真を背景に使用した弦楽アンサンブル公演など、南部町の特徴を生かした魅力的なイベントとなっており、米子市や周辺地域からの参加者も一定数確保するなど地域内巡回の一定の成果も表れた。</p> <p>行政だけでなく青年団等の方々の様子から、地域あげて「とりアート」を盛り上げようという熱気が伝わってきた。</p>
		<p>さらなる町内の方との連携を図りつつ、地域特性を読み取りながら、開催地域での実施についてテーマ・内容について深掘りをし、西部地区全域で展開していく目的と目標を明確にしていく必要がある。また、併せて「迎えに行く」ための具体的な手段についても検討する必要がある。</p> <p>1回のイベントでなく、今後も市町村で継続して開催できるような支援がなければ、打ち上げ花火で終わってしまう。</p>	<p>【課題】</p> <p>南部町の魅力を発揮した盛り上がりを今回だけで終わらせるのではなく、西部地区全域の住民誰もが気軽に文化芸術活動に関わることができる機会を今後どう継続して提供していくのか、具体的な方向を検討してもらいたい。</p>	

		<p>【参加と体感を通し、アートへの親しみと造詣を深める環境づくり】</p> <p>▼今年度より“実演芸術（舞台）”が実施内容の主となるが、「鑑賞」によるアートとの関わりだけではなく、制作する部分にも触れられるような企画を盛り込む。アートへの親しみは、まずはその現場に参加し体感することで深まり、そこから関わる範囲が広がっていくはずであるからこそ、地域全体でその機会を提供していく。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>舞台芸術の制作にあたり「リーディング演劇公演」では、舞台美術に関する部分で、装置となる竹あかりづくりのワークショップの開催や、南部町青年団の協力による舞台装置の制作を行ったこと、「弦楽アンサンブル公演」では地域おこし協力隊のかたに参加いただき、演奏とコラボする映像制作・写真展示を行っていただいたことにより、実演者以外にもアートを体感する機会を提供できた。また、地元の若者や地域おこし協力隊の方を通じて地域とのかかわりが深まった。</p> <p>ワークショップで作製した竹あかりを舞台演出に使ったこともあり、子どもたちの参加も多く、大人が見ても子どもが見ても楽しいステージとなり、参加者のイキイキとした顔が見られた。また、楽器体験や映像写真によりアートに親しみを感じ、楽器や写真を始めたいと思った方も多かったように思う。</p> <p>【課題】</p> <p>「実演芸術」を主として、「参加・体感」できる内容をいかに盛り込んでいくかということの検討が必要。また、「実演芸術」についての知識や特性の理解が必要であるため、今後委員会としてどのように取り組んで行くのかを検討していく必要がある。</p> <p>開催地域の特性について理解し委員全員で共有し、細かなところで精度をあげ、本番のステージをよりイメージしながら制作できると、さらに意義のあるものになると思われる。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>リーディング演劇公演の舞台装置の一部にワークショップの作品を取り入れて開催したことで、鑑賞した作成者は演劇に関わった喜びを味わえたとともに、アートを身近に感じ、親しみをもつことができる取組となった。</p> <p>【課題】</p> <p>アートをどう広めていくのか、周知方法等の工夫を含めて、今後の様々なアプローチを期待したい。</p>
--	--	---	---	---

<p>「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～</p>	<p>支援者・担い手・後継者の育成、育成した人材を活用する場の提供</p>	<p>【体験・体感型の企画による地域での活動者の育成】</p> <p>▼ これまでと変わらず、地域住民が参加しやすく、体験を伴って、アートに関心をもってもらう工夫をしていく。体験を通じて、参加者がいつものまちで身近にアートを実施できることを体感し、地元でアート活動を行っていく次世代の活動者の輩出へとつなげていく。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>高校生サークルや青年団の参加・協力を得られ関わりができたことで、目的、目標に近づけた。また、地元の竹を使った竹あかり作りは子どもから大人まで楽しんでもらい、年齢間の交流があり刺激になったと思われる。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>高校生や青年団等幅広い年齢層の地元住民の参加・協力を得られたことで、手作り感のある和やかな雰囲気の中、アートを身近に感じてもらう機会を提供することができた。</p> <p>竹あかりづくりや楽器演奏などのワークショップなどは、異年齢間の交流もある穏やかな雰囲気の中、アートの楽しさを体験・体感できるイベントであった。</p>
			<p>【課題】</p> <p>「実演芸術」についての知識や特性の理解が必要であるとともに、実施者（実演者）と連携しながら、「体験」できる機会をどのように創出するかを検討していく必要がある。</p> <p>併せて、今後も継続して地域の方に参加・協力していただくためには企画の段階から入ってもらうことを考える必要がある。</p> <p>また、より幅広い年齢層の方が参加・体験できるよう、中学校美術部や公民館教室等との新たなかかわりを検討する必要があると思われる。</p>	<p>【課題】</p> <p>多くの方の支援を得た今回を踏まえ、今後多くの方に企画段階から関わってもらうことを期待したい。</p> <p>実演芸術についての体験や発表の機会を作りだしながら、実践者や参加者の層をどう広げていくのか、検討していただきたい。</p>

		<p>【再演的实践者の登用による実践者の更なる発展と後継者の育成】</p> <p>▼ 過去とりアートで実演した実践者を登用し、これまで実現できていない再演（演目ではなく、実践者）による経験のブラッシュアップを試み、実践者のレベルアップと提供するアートのクオリティを上げていく。 クオリティのアップは、地域活動者への刺激となり、後継者育成へつなげていく。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 メインステージに、過去とりアートに参加された実践者を登用したことによって、実施内容を理解いただき、クオリティの高いプログラムを提供できたと思う。過去の実践者をその場限りとせず、ブラッシュアップの意味も込めて実施することが、今後の西部地区のアートのクオリティアップにつながって行くことを実感した。 また、リーディング演劇と箏の演奏、スクリーンに映し出される世界にあわせた弦楽演奏という実践者のコラボレートが面白く新鮮で、刺激し合うことでクオリティが上がり、それぞれのステップアップにもつながったと思われる。</p> <p>【課題】 「実演芸術」についての知識や特性への理解が浅かったために、踏み込んだ検討ができなかった。 また、やった実績のみにならないように継続していくには人材の育成が必要であり、継続した活動につなげることによる後継者育成ができると思う。 今後の支援策の検討が必要である。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 過去のとりアート実践者をブラッシュアップの期待を込めて登用したことで、メインステージがクオリティの高いものになっていた。 リーディング演劇と箏の演奏、弦楽演奏というコラボレーションが、互いに刺激し合う効果を生み出し、実践者のレベルアップと提供するアートのクオリティを高めることに結びついた。</p> <p>【課題】 後継者育成については今後の大きな課題であり、検討が必要である。</p>
--	--	--	--	---

<p>「アート」 で元気に ～地域づ くり～</p>	<p>地域住民の 参加を促 し、アート をつくりな がら地域活 性化</p>	<p>【地域住民のアートへの 関心を高める】</p> <p>▼ 提供するアートのクオリ ティは高くしながらも、 誰もが関わりやすい内容 や場所を設定すること で、予期せぬ出会いから、 アートの楽しさを感じる きっかけづくりとする。 しっかりと芸術性を担保 した内容とすることで、 参加者（鑑賞者）の意識の 向上を促し、地域のアート への関心を高めていく。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>「予期せぬ出会い」の場として、キナルなんぶは適していた。地域に関する内容をプログラムに盛り込んだことで、親しみを感じていただけるステージになったと思われる。実演者の実力ととりアートへの理解によってクオリティが担保され、アート性があり、かつ、アートに関心興味を惹き付けるような内容が創作され、地域の方がアートに触れるきっかけになったと思う。</p> <p>今回のイベントを通して南部町が持つ地域の特性を改めて再発見できたことにより、地域におけるアートへの関心を高めることができたと思われる。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>キナル南部が複合施設としての利便性や可能性を参加者にアピールしただけでなく、「神話のふるさと南部町」に合わせて企画されたイベントによって、南部町の地域の特性や魅力を充分伝えることができた。</p>
		<p>【課題】</p> <p>地域住民への広報が遅れ、周知が不足した。また、施設のキャパを把握することが足りず、提供できる数量が不足してしまった。複数公演を当初から検討するなど、鑑賞者の数の見込みを明確にしていく必要がある。併せて、広報において、早めのアプローチを行い、内容にさらに関心を持ってもらうことが必要である。</p> <p>また、施設を訪れた誰もが気軽に参加でき、アートを体験できるような企画を施設全体で実施できる体制を取れるように、会場となる施設と早期から打合せを行い、とりアートへの理解・協力を得る必要がある。</p> <p>今回のイベントは地域住民がアートに触れるきっかけになったと思うが、今後、市町村でそれをどう継続してもらえるかを検討していく必要を感じる。</p>	<p>【課題】</p> <p>地域住民の関心を高め参加を促すにはどうしたらいいのかといったことは、他市町村にとっても大きな課題である。今回のイベントの広報や企画などの取り組みを検討し、他市町村と連携をとってほしい。</p>	

	<p>【実践者の可能性の拡大を地域づくりに結びつける】</p> <p>▼ とりアートを、文化・芸術の実験場と捉え、実践者が普段取り組んでいない事への創作に向けたチャレンジの機会とし、とりアートだからこそできる可能性を提供することによって、実践者の活動の場を広げ、アートに関わろうとしている人材への門戸を広げる。 なお、創作するコンテンツに地域のリソースを取り入れることで、地域全体で実践者を育てる機運を育てつつ、実践者が地域へ密着することで、地域全体がアートによって活性化することを目指す。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 メインステージの演劇・音楽共に、町内出身者の参画があったことで、地域のリソースが十分に取り入れられてアートを身近に感じてもらえるような環境になったと思う。 実践者のコラボレートや青年団や高校生の舞台装置作り等への参画は、新たな創作へのチャレンジの場となり、実践者・参画者の「今後もアートにかかわっていきたい」という気持ちを育てることができたと思う。</p> <p>【課題】 実践者のとりアートへの理解による成果はあったが、アートによる地域全体の活性化につながる内容の検討までは至らなかった。引き続き、アートでの地域づくりに向けて、魅力ある創作プログラムを模索していくには、地域でアート活動に取り組んでいる人材や組織の発掘・把握のための方策、及び市町村との連携のための方策が必要である。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 メインステージで、高校演劇部 OB の若者とのコラボレーションを行ったり、青年団をはじめとする地域の人材を取り込んだりして実施したことは大きなチャレンジであり、次につながる実績を残し、地域全体で実践者を育てようという機運の醸成につながった。</p> <p>【課題】 アートによる地域活性化には、多くの課題があり一朝一夕ではないと思うが、今回のとりアートの開催をきっかけに、その方策と道筋を考えていただきたい。</p>
達成度集計		(12/18) ≒ 66.7%	(12/18) ≒ 66.7%

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
①アンケート回収率 (%)	80%	65.8%	82.2%
②観客満足度 (%)	90%	96.7%	94.4%
③入場者数 (名)	300人	344人	3,054人

【自己評価総括】

○成果

- ・キナルなんぶが会場ということで、南部町職員の方にオブザーバーとして準備から当日運営までご協力いただき、様々なアドバイスをいただけたことで地域とのつながりが生まれ、今回のようなイベントを開催できた。特に南部町の若者たちにアートと出会うきっかけを提供できたことが何よりも大きな成果となった。
- ・南部町での新たな出会いがつながりを生み、地域住民、市町村との連携を活かして事業を展開できた。
- ・会場が中規模でコンパクトであることを活かした会場づくりにより、臨場感・一体感が生まれコラボレートが成功した。趣向の異なるアーティスト同士の繋がりを創出できたことで、「古事記」「和楽器」「弦楽器」「南部町の風景」等の魅力、面白さを改めて気付かされるきっかけとなり、地域住民のアートへの関心、実践者のブラッシュアップを促せた。

○課題

- ・広報開始が遅れたこともあり、まだまだ「とりアート」の認識が低い状況である。早い時期から「とりアート」という言葉が町民の目や耳に触れるような広報やPRを行うために、よりの確な広報計画を立てる必要がある。
- ・今後も地域での「とりアート」を継続していくためには、地域の高校生サークルや青年団を、受動的・従属的な関わりから、主体的な関わりへと変容させるための次の一手の検討が必要である。
- ・施設のキャパが小さくコロナ感染症対策もあったことで入場可能者数に制限があり、どこまでどのぐらい広報するか等、広報のさじ加減がむずかしかった。今後も西部全域を巡回し開催していくにあたっては、複数回公演、複数会場での公演等、より多くの方にアートに触れる機会を提供できる体制を検討する必要がある。

○その他事業に関する意見、感想など

- ・今年度新たに策定された「とりアート実施方針」をもとに、事務局の立場、委員会、実施者の立ち位置を再度確認する必要性を感じる。
- ・今回、委員としてだけでなく実施者として参加できたことで、確かな手ごたえも感じられ大変感謝している。
- ・今回の公演を1回のイベントとして完結させるのではなく、例えば「古事記」をテーマとした企画をシリーズ化し、「古事記」の関わりある地域などで再演しつづけるといった地道な活動が、とりアートとして様々なメリット、発信、関心の拡大につながるように思う。

【委員評価総括】

○成果

- ・「キナルなんぶ」という新しく出来た魅力的な場所で開催された今回のとりアート西部は、従来の米子での開催という枠を飛び出し、新鮮なインパクトを与えた。とりわけ、西部地区の住民にとっては、今後のとりアートの可能性を感じられる機会となったと思われる。
- ・一連の取組を進める中で、実践者のレベルアップにつなげるとともに、地域住民との協働等を通じ、若者を中心に幅広い層にアートと出会う契機を創出することができた。
- ・メインステージを全く内容の異なったⅡ部構成にする事で、アートを身近に感じられる素晴らしい機会を与える場となっていた。前半の南部町に伝わる「古事記」に題材をしばった一風変わった“リーディング演劇オト・コト古事記”は、タイトル名から興味をそそり、最後まで観客を楽しませる事ができた。後半の「音楽で世界旅行」は、生演奏で親しみのある名曲を写真と共に身近に鑑賞でき、風景に関するトークも面白く、いろいろな世界に目を向ける好機となっていた。このような新しい手法から、今後のとりアートの方向性を見いだせたように感じた。
- ・「オト・コト古事記」の出演者はマスクを着用していたが、そのマスクのユニークな工夫が狭い空間での鑑賞する者に安心感と和やかな雰囲気を与えていた。

○課題

- ・施設のキャパシティ等の具合でメインステージの収容人数が制限されるなど、目標参加者数は超えているとはいえ、西部地区全体の取組としては、観客数が少なく物足りなさを感じた。また、広報に関する課題意識が主催者側から寄せられたり、「南部町の秋」の写真作品の応募も少なかつたりしたこともあり、早めに告知を行うなどもっと周知を図る必要があった。
- ・せつかくのユニークなステージをより多くの人に鑑賞してもらえる様、複数公演を検討するなど会場での直接鑑賞・直接体験を基本としながらネット動画配信や地元ケーブルテレビ等と連携するなど、コロナ禍で参加しにくい方を含め幅広く県民がとりアートに親しむことができるようなことも検討してほしい。
- ・定量目標としているアンケート回収率が昨年度実績よりも低く、目標に届かなかった。アンケートはより良い事業展開を図る意味でも重要な資料となるものであり、回収率を上げるためのさらなる工夫を期待。

○その他事業に関する意見、感想など

- ・地域の巡回型を追求する時は、会場の特性に苦勞するが、今回の会場はまさに多目的な施設であり、とりアートの空間とそうでない空間のイベントに対する温度差を感じた。
- ・コロナ禍の中での公演という事で、引き続き主催者側の苦勞が伺えたが、「オト・コト古事記」の公演終了後、誘導に従い会場を出た途端、公演を観た人などが立ち止まり、会話をする人などでごった返しており、感染予防対策の観点から気になった。
- ・リーディング演劇の前日ゲネプロの後では、せつかくすばらしいものを見ることができたので、そこにいくまでの過程の苦勞話などを聞く場があれば、よりよいのではないかと思った。
- ・何年か継続で行うべき挑戦だと感じた。来年も同じ場所での開催を期待する。
- ・市町村を巡回して開催すること（それぞれの市町村が独自性を出すこと）西部地区全体の取組とすることとの折り合いをどうつけていくのか、狙いの明確化、共有しながらビジョンを持って取り組んでいく必要がある。各会場で共通したテーマを設けるなど企画段階からよく検討を行う必要がある。
- ・後継者育成については、若い実践者（小・中・高校生など）をクオリティの高い実践者と様々な形で関わらせることで「すごいな」、「自分もやってみたい」、「自分もあんな風になってみたい」といった感想が得られるように取り組んでいただくことを期待。（現時点では「楽しかった」でとどまっているように思われた。）
- ・アートでの地域づくりを模索していくには、伝統芸能などを含め地域でのアート活動に取り組んでいる人材や組織の幅広い発掘や市町村等関係機関との一層の連携が必要であり、そうしたことへ対応するためにも運営に常に新しいメンバーや新しい視点が加わるような配慮・工夫がなされるよう期待する。
- ・本事業評価においては、客観的な事業評価のため、出来る限り分かりやすい文言の使用や行動計画の具体性かつ可能であれば数値目標の設定が共通認識として必要と考えるので、引き続き、次年度以降留意いただきたい。
- ・昨年度の評価委員会で、各事業者は行動計画の中に、新型コロナウイルスの感染予防の観点を記述し、評価項目とすることと確認されていたが、行動計画の中にその観点が盛り込まれていなかった。現に取組としては対策が講じられていると認識されていることから、来年度は対策の経過について「行動計画」と「自己評価」に入れていただきたい。

(4) 第12回とっとり伝統芸能まつり

令和3年12月5日(日) 米子市公会堂 大ホール

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標	行動計画	達成度及び評価理由	達成度及び評価委員からのコメント
「アート」に親しむ～環境づくり～	質の高い文化芸術活動・県民への鑑賞機会の拡大	<p>新型コロナウイルス感染予防のため、舞台上が密にならないよう通常より少ない演者数で編成したり、ハイライトシーンを中心とする質の高い内容となるよう努める。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 コロナ予防対策として、舞台上の出演者同士、インタビュー時の司会と出演者との距離をとる配置とした。客席から牛を登場させる際には、練り歩く距離を短く調整し、牛引きの演者にマスクを着用してもらった等、演出を工夫した。 また、見どころを凝縮した演出となるよう、演目時間を短縮した。 (例：日南神楽「大蛇退治」は本来90分の演目だが、ハイライトを中心に25分に短縮。) アンケートでは特に演目や演出についての満足度が高かった。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 入り口での記名、手指消毒、検温、またプログラムを各自で取る等、感染対策は徹底していた。 コロナ禍の開催として二年振りとなる観客を入れての演目上演は、少ない演者数やハイライトシーン中心に短縮するなどの細やかな配慮が見受けられ、生の舞台を楽しみに訪れた観客も安心して観覧することができ満足度も高かった。</p>
		<p>鳥取県の各地域に伝わる伝統芸能を多くの方々に知って興味を持っていただく。 また、まつり終了後に、舞台の録画映像をYouTubeで配信し、当日会場で観覧できなかった県内外の方にも視聴いただき、鳥取の伝統芸能ファンのはすそ野を広げる。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 アンケートでは、「鳥取にいろいろな伝統芸能があることを再発見した」「伝統芸能の素晴らしさを感じた」と回答した方がそれぞれ6割以上であることから、来場者に鳥取の伝統芸能に興味を持っていただけたと考える。 また、公演終了2週間後からは録画映像をYouTubeで配信し、いつでも誰でも鳥取の伝統芸能に触れられる機会を提供している。 (※配信開始(令和3年12月20日から令和4年1月12日までの時点の総視聴回数は1,539回))</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 各団体の演目の持つ力、生の舞台で感じる迫力等、多くの観客に伝わったことが、アンケートで60%台の結果に出ている。 初めて鑑賞した観客にも「伝統芸能の素晴らしさ」を感じ興味を持ってもらえた好機となった。 またYouTube配信の取り組みは、1,500名を超える県内外の方が視聴することにより、鳥取県の伝統芸能を幅広く紹介することで多くの方々に知ってもらえ、はすそ野拡大に寄与した。</p>
		<p>来場された方には鳥取の伝統芸能に興味を持っていただけたが、来場者自体が例年より少なかったことから、多くの方々に興味を持っていただくためには来場者の増を図る取組が必要。</p>	<p>【課題】 コロナ禍による来場者の縮小は止むを得ない事態ではあるが、今回のアンケートで60%以上の再発見、素晴らしさを感じたという結果を少しでも押し上げることが課題。 YouTube視聴者を増やすことはもとより、後日の配信でなく、同時のライブ配信を考えたり、また、伝統芸能を扱う県のウェブページとの連携など、今後とも工夫を重ね、取り組んでいくことが必要。</p>	

		<p>広く県民への周知を図るため、様々な媒体を活用し、効果的な広報に努める。</p> <p>※チラシ・ポスター、新聞お知らせ欄、新聞折込チラシ・各自治体広報紙、ホームページ(伝統芸能まつり・アーカイブス)・SNS等</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>以下のように様々な広報媒体を活用し開催の周知を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ・ポスターの配布(県内伝統芸能保存団体、文化施設、公民館、出演団体所属市町村小中学校等) ・県政広報(令和3年11月25日付新聞掲載) ・中海テレビニュース『モーニングスタジオ』への生電話出演 ・報道機関への資料提供 ・とりネットHP掲載 ・とっとり伝統芸能まつりHP掲載 ・文化政策課公式ツイッターでの情報発信。 ・開催地域の日本海新聞購読者(約57,700世帯)へ新聞折込によるチラシ配布。 <p>アンケートでは、チラシにより情報を入手した方が半数以上であり、県内各所へのチラシ配架、新聞折込チラシが有効だったと考えられる。</p> <p>※昨年度の事業評価では、テレビでの広報も検討するとしたが、予算の関係上実施できなかった。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】</p> <p>様々な媒体を駆使し効果的な広報に努め、広く県民への周知を行った結果、アンケートでも広報活動の効果が見て取れる。</p> <p>はじめて鑑賞した者が52.8%にのぼるなど一定の成果を上げた。</p>
			<p>【課題】</p> <p>当日の来場者数からは、十分に周知できたとは言えないが、現在の予算枠内で可能な限りの広報を行っているところであるため、今後は、広報手段というよりは人を集める工夫等、イベント自体の魅力を高める工夫が必要と考える。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、致し方なかったが、入場者は目標を大きく下回る結果となった。 ・目標数も見直すべきではなかったか。 ・ホームページやツイッターなどの広報効果が低かったのは、入場者の年齢分布からしても納得できるので、ターゲットを絞った、より効果的な広報活動の検討を期待する。

<p>「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～</p>	<p>児童・生徒が伝統芸能に触れ地域への愛着と誇りを高める</p>	<p>演者として子どもたちに参加してもらったり、子ども達にまつりを観覧してもらうことで、伝統芸能への興味喚起を図る。 ※新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から、昨年に引き続き高校生ボランティアによる運営参加は無しとした。</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 出演者 88 名のうち、10 歳代以下は 19 名と、演者として 2 割は子ども達の参加であったので、この部分の子ども参加は達成した。 しかしながら、来場者は 50 歳代以上が大半であり、30 歳代以下は全体の 1 割にも満たず若年層の観覧者は少なかった。</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 ・今回の演目の中では演者として 2 割が子供達の参加で“後継者育成”の観点からも観ていてとても好感が持てた。是非、伝統芸能を継承して行ってほしいという願いをもった。</p>
			<p>【課題】 伝統芸能に関心が低いと思われる若年層に会場に足を運んでもらうため、若者の興味を引く同時コラボイベント開催等で、まずは会場に呼び込む工夫を検討する必要がある。</p>	<p>【課題】 ・以前は会場に高校生ボランティアの姿があり、雰囲気も良かったが、コロナ禍では慎重にならざるを得ないのは致し方ないことだ。 ・伝統芸能に関心が低いと思われる若年層に会場に足を運んでもらう魅力的なコラボイベント等を開催するなど、更なる工夫が必要。それと共に、もっと地域を巻き込めるような根本的な取組が必要ではないか。 ・一方、来場者は 50 歳代以上が大半であり、30 歳代以下の若年層の観覧者は少なかった。</p>
<p>「アート」で元気に～地域づくり～</p>	<p>地域の伝統芸能の継承・文化アイデンティティの確立</p>	<p>オープニング映像により、伝統芸能が継承されている地域の魅力発信を行うとともに、地域と伝統芸能とのつながりを紹介し、その場所に行ってみたいと思える演出を行う。 また、地域伝統芸能の舞台を通じて、出演者、鑑賞者が地域の魅力を再発見するきっかけとする。 ※当日の観客アンケートにより調査</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 演目前のオープニング映像では、出演団体が所属する各市町村の魅力伝える内容に加え、今年度から伝統芸能の生まれた背景や保存団体の活動等の紹介等、伝統芸能とのつながりが感じられる内容も紹介した。 アンケートでは、「鳥取にいろいろな伝統芸能があることを再発見」した方は 62.4%、「伝統芸能の素晴らしさ」を感じた方は、68.8%と高い割合であり、多くの方に地域の伝統芸能の魅力を再発見していただく契機となったと考える。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 ・演目前の紹介オープニング映像では、各市町村の様子が分かりやすくまとめられ、また地域の伝統芸能に取り組む場面では観客の興味をそそり、大変効果的な映像であった。 ・演目終了後の出演者インタビューにより、伝統芸能が継承されている地域の魅力をより詳しく発信でき、地域と伝統芸能との繋がりを紹介することで、多くの方に再発見してもらう機会の創出に繋がった。</p>
			<p>【課題】 アンケートでは、「実際に現地に行ってみようと思った」は回答者の 16.8%であり、オープニング映像での魅力発信だけでは、実際に現地に行ってみたいと思わせるのは難しいと考える。今後、可能な範囲で、会場に各市町村の観光パンフレットを置く等の工夫も検討する。</p>	<p>【課題】 オープニング映像の魅力発信に加えて「実際に現地に行ってみよう」と思わせる取り組み、例えば、伝統芸能の歴史的背景、伝統芸能とのつながりが感じられる地域の魅力などを紹介するパネル展示や、観光パンフレットの配置など可能な範囲で、さらなる工夫を期待する。</p>
<p>達成度集計</p>			<p>(10 / 15) ≒ 66.7%</p>	<p>(10 / 15) ≒ 66.7%</p>

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 一昨年度実績 ※集客開催した令和元年度実績
アンケート回収率 (%)	40%	70%	56.4%
観客満足度 (%)	99%	※80.4%	100%
入場者数 (名)	1,000人	357人	585人

※無回答を抜いた有効回答数による割合は100%

【自己評価総括】

○成果

- ・昨年度は、新型コロナウイルスの影響により無観客開催だったため、今年度がコロナ禍において初めての集客開催となったが、コロナ予防対策に伴う動きを事前に準備したこともあり、当日は大きな混乱もなく無事に開催できた。観客者数は、一昨年度の集客開催時より減少したものの、来場者の満足度は非常に高く、伝統芸能の素晴らしさを伝え、郷土に親しみと誇りを感じてもらうことができた。
- ・また、昨年度のライブ配信の成果を踏まえ、今年度は集客開催に加え後日に YouTube で映像配信を行い会場に来られなかった県内外の方へ鳥取の伝統芸能の魅力を発信する取組みも同時に行っており、従来の会場観覧による生で触れる良さと、映像配信による会場定員数の枠を超えた発信力の強みを併せ持つ催しとなった。さらに、伝統芸能が映像に残ることにより、今後、継承が危ぶまれる伝統芸能の継続的な活動PRになるとともに、アーカイブ的な役割も兼ねることも可能と考える。

○課題

- ・現在の予算の範囲内で可能な限りの広報を実施したが来場者数は一昨年度より減少した。
- ・今後、広報手段というより、例えば、親子連れをターゲットとした伝統芸能ワークショップ等企画や、食の催し企画等の他イベントとのコラボ等により人を集める工夫等、新たな切り口でイベント自体の魅力を高める取組みの検討が必要と考える。

【委員評価総括】

○成果

- ・コロナ禍での開催としては、安全に気を配り、クラスターの発生もなかった点で成功だったと言える。
- ・今回は、12回目と回を重ねてきたこれまでの実績も感じられ、又、生の舞台の迫力も提供されたことで、観客の満足度が充分感じられた。
- ・オープニング映像や演目終了後の出演者インタビューにより、伝統芸能や伝統芸能が継承されている地域の魅力発信を行うとともに、地域と伝統芸能とのつながりを紹介することで、多くの方に地域の伝統芸能の魅力を再発見してもらい創出につながった。
- ・いずれの出し物も高いレベルの演技だった。
- ・YouTubeでの配信はとても効果的でアーカイブ的な役割も果たしている。

○課題

- ・入場者数は実績が目標値に達しなかった。コロナ禍が定着する勢いを呈しており、感染防止対策と集客人数等、相反する対策を強いられる。主催者への負担がますます重くなる。
- ・来場者についてはまだまだ高齢者が中心となっている。コロナ禍で実施できなかった高校生ボランティアによる運営などを含め伝統芸能に関心が低いと思われる若年層に会場に足を運んでもらう更なる工夫が必要。

○その他事業に関する意見、感想など

- ・伝統芸能は、まさに地域づくりであり、地域の発見・良さの再確認であると思う。ただし、価値観の多様な現在、どういう風に継承していくのか大きな課題であると思う。
- ・プログラムの内容は演目がよく解説されてはいるが、今後は演者の名前も入れてはどうかと感じた。
- ・伝統芸能は、歴史を知らなければ興味もわかないと考える。それぞれの地域で歴史教育が必要ではなからうか。郷土史を学ぶための教育システムの構築を模索して欲しい。
- ・演目後のインタビューの中で、大人になってからではなく幼少の頃から伝統芸能に関わらせることが将来の継承者づくりの近道となり、自分達はそれを実践しているといった趣旨の出演者の発言は印象的であった。
- ・「アート」で元気に～地域づくり～にも例示されている地域の伝統芸能の継承といった観点からも、より一層文化財セクションとの連携を意識して取り組んでいってはどうか。
- ・全体の演目の長さが3時間以上と長丁場なのが少し気になった。演目時間を短くするのがいいのか、演目数を減らし一つの演目時間を少しでも長くした方がいいのか、今後親子連れ等、若年層を呼び込むためには、この点でも検証が必要である。
- ・上演中、頻りに1階後ろのドアが開閉されたのがとても目障りだった。その度に光が入るので、演者にも差しさわりのあったのではないかと危惧する。上演途中の出入りは、足の不自由な方等をのぞいて、2階からにするべき。
- ・また、1階後ろの方で、大きい声での会話がなかった。観客でなく、何か連絡している関係者の声だったので、とても気になった。

(5) 第65回鳥取県美術展覧会

令和3年9月18日(土)～11月23日(火) 県立博物館、他

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標	行動計画	達成度及び評価理由	達成度及び評価委員からのコメント
「アート」に親しむ～環境づくり～	徹底したコロナ対策による安心・安全な県展の開催	<p>安心・安全な環境のもと、作品展示規模を縮小することなく県展を開催するため、運営体制の見直しを含め、徹底したコロナ対策を行う。</p> <p>【展覧会期間中】 検温・手指消毒・マスク着用といった基本的な感染対策について、会場各所に注意事項を掲示し、また入場口における受付職員の案内等により、来場者に対する周知呼びかけを徹底する。</p> <p>また、感染の疑いのある方が発生した場合の対応について、県のイベント開催基準（ガイドライン）を基に作成した県展の個別マニュアルにより、関係者と情報共有して迅速な対応にあたる。</p> <p>(次ページへ続く)</p> <p>【表彰式・開会式】 例年は制限を設けていない見学者の数を、16名（表彰者の同行者を各1名）に限定する。</p> <p>その他の来館者の動線について、会場各所に注意事項としてパネル掲示するとともに、入場口における受付職員の誘導等により明確に分けることで、密集・密接を防ぐ。</p> <p>【ギャラリートーク】 参加者のフィジカルディスタンスが適切に保たれるよう、昨年に引き続き誘導に従事するスタッフを2名以上配置する。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 表彰式・開会式、及びギャラリートークを含め、展覧会期間中、県展の新型コロナウイルス感染防止対策マニュアルに基づいた対応を行い、感染者の発生なく展覧会を実施できた。</p> <p>【課題】 鳥取会場のギャラリートークにおいて、講評者のマイクの消毒方法について、実際に運營業務にあたる委託事業者スタッフとの情報連携が不足し、一部、講師のマイク交換の際に消毒が徹底されていないなど、当初予定していた対策と異なる対応が行われていた。県と事業者で事前の打ち合わせと当日の確認をより綿密に行うよう改善する必要がある。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 コロナ感染防止策は全体としてはほぼとられていた。そして期間中のクラスター発生はなかった。</p> <p>【課題】 ギャラリートークの時、マイクの消毒が徹底されていなかった。(鳥取会場) ギャラリートークの時に密が発生した(倉吉会場)係員の回避対応はなかった。 写真のギャラリートークの時(米子会場)、フィジカルディスタンスがとられていなかった。 会場によっては咳をする人を見かけ、不安な気持ちになる場面もあった。 審査会での座席の間隔が狭いと感じた(不安だった)。</p>

	<p>作品の出品数拡大と若年層の鑑賞促進</p>	<p>作品募集の開始を例年の7月から5月に早めるとともに、県HP等での広報等例年の周知に加え、開催要項の配布について、昨年度より多くの県内画材店や文化施設等へ協力を依頼し、新規出品者の掘り起こしとともに、出品数の拡大を図る。</p> <p>【目標値】 出品数：600点 (過年度実績)</p> <table border="1" data-bbox="486 548 758 712"> <tr><td>第64回</td><td>570点</td></tr> <tr><td>第63回</td><td>595点</td></tr> <tr><td>第62回</td><td>591点</td></tr> <tr><td>第61回</td><td>618点</td></tr> <tr><td>第60回</td><td>629点</td></tr> </table> <p>これまでのチラシ・ポスター、新聞広告を中心とした情報発信に加え、地域のイベント情報等を発信しているWebサイトや携帯電話のイベント情報アプリにより、特に30代以下への県展の魅力発信を強化する。</p> <p>【目標数値】 (観客アンケート) 30代以下の来場者割合：15% (第64回実績13.1%)</p>	第64回	570点	第63回	595点	第62回	591点	第61回	618点	第60回	629点	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 出品数は534点(対前年▲36点)となり、前年度に引き続き2年連続の減少となった。また、30代以下の来場者割合は全体の10.3%で、目標数値に届かなかった。 県のツイッター・ホームページに加え、Webサイトなどでの広報の結果、県展を知った理由としてSNS及びホームページを上げた観覧者の割合は前年6.7%に対し6.8%と微増した。</p> <p>【課題】 出品数について、洋画部門のみ大きく出品数が減少している(昨年対比▲22点)。コロナ禍により作品制作環境がどのように変化しているかを把握し、現状に応じた方法・内容で作品を募ることが必要である。</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 作品募集開始を5月から実施した。広報活動を広げ、インターネット・SNS環境に参入した。</p> <p>【課題】 出品数は目標値の600点に▲66点(達成率89%) 30代以下の来場者割合の目標値は全体の15%に▲4.7%(達成率68.7%) いずれも前年度比減少しており、小手先の手法では限界が来ている。</p>
第64回	570点													
第63回	595点													
第62回	591点													
第61回	618点													
第60回	629点													
<p>「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～</p>	<p>出品者及び鑑賞者がより県展を身近に感じる取り組みの実施</p>	<p>令和元年度から新たに実施している「展示作品への鑑賞者投票」(『あなたが好きな作品賞』)について、参加(投票)の呼びかけを会場内のパネル掲示や入場口における受付職員の案内等により強化することで、より、子どもから大人まで主体的に関心をもって鑑賞してもらえるよう取り組む。また、投票を通じ、無鑑査等の審査を経ない出品作家に対する顕彰の機会としても、創作活動への更なる意欲向上につなげる。</p> <p>【目標数値】 投票率：45% (第64回実績:43.4%)</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 鑑賞者投票(『あなたが好きな作品賞』)を行うことで、作品をじっくり見ることにつながったなどの意見があり、主体的な鑑賞につながったと考えられるが、投票率は42%で目標に達しなかった。受賞作品には、県展賞、奨励賞受賞作品以外に審査員(無鑑査)作品、受賞候補作品、入選作品が選出され、出品者を広く顕彰する機会につながっている。</p> <p>【課題】 アンケートでは、作品投票があることに気づかなかったという鑑賞者の意見があったため、来場者にもれなく投票の制度を周知できるよう、当日の会場での周知だけでなく、展覧会開催前の広報でもより積極的にPRを行う必要がある。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 「あなたが好きな作品賞」8部門9作品が表彰された。出品者及び鑑賞者がより県展を身近に感じた。</p> <p>【課題】 目標投票率が45%に比し▲3%(達成率93.3%)前回より実質▲1.4% 頭打ちとなっている。 投票の案内・声掛けが徹底されていなかった。</p>										

		<p>学生以下の若年層に対する県展への関心、参加・出品数の向上を図るため、開催要項の早期配布（夏休み前に県内すべての高校、大学等へ開催要項の配布）を行う。</p> <p>ジュニア県展表彰式（県展会期終了後・12月開催）に行われる「あなたの好きな作品賞」の表彰式において、県展の紹介を行い、より身近な展覧会として存在を認識してもらう。</p> <p>【目標数値】 学生以下の出品数：50点 （第64回実績：40点）</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 高校生の出品数が減り学生以下の出品数は29点となり、目標値に届かなかった。 「あなたが好きな作品賞」表彰式で県展の出品・鑑賞についてPRを行うリーフレットを今回新たに配布したことに加え、隣接するジュニア県展展示会場で作品紹介パネルの展示を行い、保護者、児童・生徒に県展について知ってもらった。</p> <p>【課題】 学生にとってまだまだ県展の存在が身近にとらえられていないと考えられる。 引き続きジュニア県展との連携や学校を通じて学生への周知を行うとともに、新たな取組みの検討も行うなど、県展のへ関心をもってもらい出品数の増加を図る必要がある。</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 開催要項の早期配布、ジュニア県展展示場でのPRを実施した。</p> <p>【課題】 学生以下の出品数目標値50点に比し▲21点（達成率58.0%） 前年比▲11点 これは長期低落傾向を示唆する数字となっている。</p>
<p>「アート」で元気に～地域づくり～</p>	<p>鑑賞者がアート作品への理解・関心を持つきっかけづくりと県内作家の質の高い作品を鑑賞する機会の提供</p>	<p>鑑賞者の関心や理解の一助として、引き続き出品者に作者コメントの作成について協力を働きかけるとともに、鑑賞者が読みやすい作品キャプションや作者コメントの掲出に取り組む。</p> <p>【目標値】 （観客アンケート） 作品キャプションの読みやすさ：「よみやすい」50%</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 本年度は92点（展示作品のうち17%）の作品で作者コメントの提出を行い、鑑賞者に作品に親しみをもち楽しんでいただける展示を行えた。 キャプションの文字の大きさなどを改善し、目標値には届かなかったものの、鑑賞者のうち42.4%が「読みやすい」と回答し、「読みにくい」と答えた鑑賞者は全体の1割以下（9.6%）にとどまった。</p> <p>【課題】 本年度はキャプションの文字の大きさなどデザインの改良を行ったが、鑑賞者からはキャプションの掲示位置を指摘する声もあったため、今一度全体的に見直しを行い、改良していく必要がある。</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 作者コメントを引き続き依頼し、92点の作品にコメントが添えられるようになった。 作品キャプションの文字を大きくするなどの改善を施した。</p> <p>【課題】 アンケートの「作品キャプションの読みやすさ」50%を目標値とした。 ▲7.6%（達成率84.8%） キャプションの掲示位置に指摘があった。 全出品数534点の17.2%の作品のコメントだったが、まだまだのびしろがある。 作品キャプションが光のあたり具合で見にくいものがあった。また、内容が専門過ぎて分かりにくいと感じた。 一部のキャプションが受付の背後の荷物に隠れて非常に見づらい（鳥取会場）。キャプションの位置取りに配慮が欠けていた。</p>

	<p>出品数が少ない日本画部門の出品数（令和2年度：35点（全体の4%））の増加を図るため、出品の隘路の一つと考えられる、軸物の作品について、これまで出品対象外としていたが、今回、額装を条件とし、出品できるように規格を見直した。</p> <p>展覧会会期までに加え、新たにギャラリートークの時間割を事前に参加者へ周知し、鑑賞者がより自身の関心に応じて主体的に選択し、参加できるようにする。</p> <p>【目標値】 （観客アンケート） 作品の質への満足度：55%（第64回50.3%）</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 出品数の少ない日本画部門への作品応募促進のため、軸物も出品できるように規格を見直したが、対象となる作品の応募はなく出品数は22点（昨年度24点）となり昨年と大きく変化はなかった。また、県展の作品の質に対する満足度は48.5%となり、前年を下回った。 ギャラリートークは事前にSNSや県HPで時間割を広報したほか、当日会場でも掲示や館内放送を行い、出席者が自身の興味に応じて自由に参加できるように工夫を行った。</p> <p>【課題】 日本画の規格変更について、新たに軸物の出品が可能になったことが、応募者へ情報として十分に伝わっていないことが考えられるため、より一層、周知を行う必要がある。 ギャラリートークについて部門を選択して聴講いただくことで、興味関心を持つ部門に積極的に参加いただいた一方、部門により参加者の数が大きく増減するという反動もあった。もともと興味のない部門でも、聞いてみようかと思ってもらえるような案内の工夫が必要である。</p>	<p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】 日本画部門に軸物の出品も可能にした。 ギャラリートークの時間割を事前に公表した。当日は掲示や館内放送を実施した。</p> <p>【課題】 軸物の出品はゼロだった。 日本画部門の出品数は22点（昨年比▲2点） ギャラリートークは部門別に参加人数のばらつきがあった。また、開催時間が長いと感じた。 作品の質への満足度の目標値55%に比し、▲6.5%（達成率88.2%） 昨年比▲1.8%となった。 展示数に占める審査員・無鑑査作品の割合が24～25%で推移していたが、今回は29.3%になった。部門によっては、半数となっている。</p>
達成度集計		(7/18) ≒ 38.9%	(8/18) ≒ 44.4%

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
アンケート回収率 (%)	45%	42.0%	43.4%
観客満足度 (%) (※6)	97%	95.2%	96.4%
入場者数 (名) (※7)	10,000人	8,507人	8,965人

【自己評価総括】

○成果

- ・ 定量目標としているアンケート回収率、観客満足度、入場者数についていずれの項目でも目標値を達成することができなかった。
- ・ 出品点数、入場者数ともに2年連続で減少した一方で、本年度新たに実施した取り組みとして、SNSやWebサイトでの広報強化、作品キャプションの改善については、鑑賞者アンケートから、前年度と比較して一定の成果は得られたことが分かった。（SNS、ホームページで県展を知った鑑賞者割合：6.7%→6.8%、作品キャプションの読みやすさ：「読みやすい」42.4%、「読みにくい」9.6%）
- ・ 入場者数の住所内訳をみると、昨年に対し中部からの鑑賞者が増加している。（21.5%→25.3%）これは県立美術館公式のSNSや、美術館建設に関係する地域団体への説明会において、県展の情報をPRしていただくなどの連携を行った成果と考えられる。

○課題

- ・ 入場者数が大きく減った日南町（912人→566人）については、町内のイベントでも参加者が大きく減っているなど、イベントへの参加自体を控える動きが続いている。コロナ禍の中、県展については表彰式の出席者の制限、鑑賞時には消毒や検温、連絡先の記入など参加者に協力をお願いしながら従来の取り組みを実施してきたところであるが、

ウィズコロナの時代を見据え、より多くの県民に県展に参加いただくためには、オンラインの活用などこれまでのやり方にこだわらない柔軟な方法を検討する必要がある。

- ・出品数の減少については特定の部門（洋画）で大きく出品数が減っている。コロナ禍の中、自宅での制作が中心となり大型の作品が中々描かれなくなっているなど、様々な背景が考えられる。そうした出品者の現状に即し、より出品がしやすい展覧会となるよう作品の規格など現在の募集要項の内容の見直しを行う。
- ・継続的な課題となっている若者世代への県展のPRについて、30代以下の県展を知ったきっかけを見ると、「知り合いからの紹介」が最も多い（16.2%）。SNS等の広報では、知り合いに拡散したいと思わせるコンテンツの提供を図る工夫が必要である。

【委員評価総括】

○成果

- ・コロナ対策は全体的にほぼ取られていた。クラスター発生を防いで、県の歴史ある県展が滞りなく開催され閉幕した。
- ・ギャラリートークは人気のある部門は盛況だった。また、部門別に分けられたのは選択肢が増えてよかった。事前の時間割の公表も、ニーズに応えた。
- ・鑑賞者参加の「あなたが好きな作品賞」への投票が今回も実施され、8部門9作品が表彰された。
- ・広報活動では、チラシ・ポスター・新聞広告に加えWebサイトや携帯電話のイベント情報アプリへの参入を果たした。
- ・日本画部門では新しく軸物の出品を可能にするなど規格変更を実施した。

○課題

- ・ギャラリートークなど密が生じやすい案件が、コロナ対策の課題として浮かび上がった。
- ・定量目標は全て未達になった。
- ・日本画の軸物で額装の点が難しい作品となる。この辺りの配慮が欠けていた。
- ・キャプション・作品説明の充実が必要である。
- ・日本画・版画・彫刻・工芸・デザインの部門の作品数が少ない。
- ・アンケートにおいて無鑑賞作品に厳しい評価があった。
- ・学生以下の出品数が伸び悩んでいる。
- ・全体の出品数が減少傾向にある。
- ・展示作品が多すぎる。（会場のスペースに合っていない）

○その他事業に関する意見、感想など

- ・定量目標が全て未達になった原因を検証して欲しい。目標が適当ではないのか？現状分析が甘かったのか？大きな曲がり角に来ているのか？
- ・入選者を増やす。例えば、鳥取県が生んだ著名な作家名を冠した賞とかどうだろう。例：前田寛治賞
- ・作品の説明を携帯（イヤホン）で聞けるシステムの開発を期待したい。ギャラリートークを録音し、あるいはYouTube発信の実施。
- ・審査委員の人数の奇数化を提案。審査でもめるのを防ぐ。今回は、洋画部門は奇数人数だった。
- ・審査の基準を作品募集時に公表すべきでは？そして、前回は、参考にするのではなく、この作品のみに集中して判断して欲しい。
- ・県展受賞者のビデオメッセージを各会場で鑑賞できるようにして欲しい。
- ・70回記念展示には、歴代の県展賞作品を展示して欲しい。
- ・展示室に、ガイド的な人材配置をお願いしたい。気軽に質問できるシステムが新しい県展を構築していく。
- ・全作品に評価コメントがあれば、ありがたい。出品者の励みにもなる。
- ・「あなたが好きな作品」を投票するシステムをさらに進化して欲しい。事前に携帯で閲覧できるとか、そんなシステムがあれば事前に用意が出来る。
- ・小学生・中学生・高校生の教育カリキュラムに県展の見学学習を組み込んで欲しい。30人学習制度が始まる昨今、子供たちの情操教育は芸術面でも大きな影響力となる。また、彼らから県展の運営に意見を募る機会を作るのも必要。
- ・県展賞の副賞を現金50万円とか高額な賞金をつけるのも一つの考えではなかろうか。作品にはお金がつきもの。努力に見合う報酬は芸術活動には必要だが。
- ・現在はインターネットや企業によるコンペティションなど、作品の発表手段が多様化している。特に若者層は芸術発表の場が無数にある。このような現実を直視し、県展の意義や利点を再検討しアピールしなければ、先細りは火を見るより明らかなのが現状であろう。

(6) 第3回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会

令和3年11月7日(日) 県民ふれあい会館 ホール

【文化芸術事業評価シート】

目的	自己評価			評価委員による評価
	取組目標	行動計画	達成度及び評価理由	達成度及び評価委員からのコメント
「アート」に親しむ～環境づくり～	万葉集や短歌といった伝統文化に親しむ機会の創出	<p>チーム対戦方式や、パフォーマンスによる発表を取り入れるとともに、著名な歌人を審査員として迎えるなど、より多くの県民が短歌作品や対戦の経過に興味深く観覧できる開催方式とする。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 トーナメント方式による1チーム3名の団体戦は、審査員からも「題の使い方や旧仮名遣いなどにチームカラーがよく表れており、この大会の特徴といえる」とコメントがあり、パフォーマンスによる発表とあわせて、本大会の特色として定着している。 また、各方面で活躍する審査員のコメントは会場アンケートでも好評で、普段、文芸になじみのない方にも短歌の面白さや楽しさが伝わる機会として有意義かつ充実したものとなった。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 トーナメントによるチーム対戦方式や、パフォーマンスによる発表を取り入れて他の短歌大会との差別化を図るとともに、著名な歌人を審査員として迎え発表者への質疑応答を通じて作品への理解が深まるよう工夫するなど、観覧者がより興味深く観覧できる開催方式とすることで、取組目標「万葉集や短歌といった伝統文化に親しむ機会の創出」につなげることができた。</p>
		<p>大会への応募、当日観覧、YouTubeでの動画視聴に加え、県立図書館で関連図書を展示するなど、万葉集や短歌への関心を高め、親しむ機会を提供する。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 コロナ禍の影響等により、応募数は昨年度より若干減り、当日観覧者数は、目標を達成できなかった。新たな取組として、県立図書館で万葉集、短歌の関連図書の企画展示(8/1～9/8)を実施し、図書館における同様の企画展示に比べて多くの貸出(66冊)があり、多くの方に興味を持っていただけた。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 これまでの広報や、大会開催の取り組みに加えて、県立図書館での万葉集、短歌の関連図書の企画展示(8/1～9/8)を実施するなどの新たな取り組みは評価できる。 また、YouTubeを活用して当日来場できなかった観客や県外の参加者も大会の様子を視聴できるようにしたことは大きな成果で、ぜひ今後も継続してほしい。</p>
			<p>【課題】 大会開催に向けたチラシ等の広報物を作成し、大会の特徴や魅力を紹介するなど、大会前の広報に力を入れ、当日の集客につなげることが課題である。</p>	<p>【課題】 当日入場者数、YouTubeでの動画閲覧数(ダイジェスト+全篇)では前年度実績を上回ったものの目標には届かなかった。大会の内容は非常に充実しており、評価できる企画である分、企画自体を知らない県民・高校生があまりにも多く、県内の高校の応募も少ないことが残念である。 他の関連大会との連携を図ったり、県東部だけの企画展示だけでなく中・西部への企画展示などの働きかけを行うなど、より効果的な広報となるよう工夫していくことが必要ではないか。</p>

「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～	全国大会への参加、短歌制作、発表等を通じた高校生の人材育成	<p>本選出場6チームのうち2チームを県内枠とし、県内の高校生と全国の高校生が出会い、交流する場を創出する。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 新型コロナ感染予防のため県外チームはオンライン参加となったが、新たな取組として、大会後の交流会をオンラインで開催し、県内高校生の司会のもと、日頃の活動状況の共有や、審査員から創作に関するアドバイスをもらうなど、参加者にとって貴重な交流の場となった。 参加チームからも「大会はもちろん、交流会が充実しており、参加して本当によかった」との声があった。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 コロナ禍の中、オンラインでの開催となったが、新たな取組として大会後の交流会を開催することにより、高校生同士が意見交換や日頃の活動状況を共有したり、審査員からのアドバイスをもらうことなどができ、短歌に関わる高校生の人材育成、県内高校生と全国高校生の出会い、交流の場の創出につながった。 16～18歳という十代の多感な時期にしか詠めない作品や言葉の選択があり、県内外の高校生達との交流は何にも代え難い貴重な機会だったと思う。また、審査員の方々との質疑応答も大変興味深く、「アート」が育む人づくりとしての刺激が参加している高校生は勿論観客の方々にもあったと思う。</p>
		<p>今回のオンライン交流会においては、意見交換しかできなかったが、今後オンラインとなった場合には今回の経験を活かし、また参集開催が可能となった場合にも、より相互の交流や「万葉の郷とっとりけん」への理解が深まるような効果的な方法を検討したい。</p>	<p>【課題】 県内高校生の司会のもと進行されるなど工夫されていたが、コロナ禍収束後には大会の企画運営(交流会だけでなく)にも関わられるようにするなどして、相互の交流や「万葉の郷とっとりけん」への理解が一層深まるような効果的な取り組みとなるよう工夫がなされることを期待する。</p>	
		<p>本大会の特徴は、作品を自由なパフォーマンスで発表するところがあり、発表を通じて、高校生が自己表現力、アピール力を高め、成長する機会とする。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 対戦では、各チームが工夫を凝らしたパフォーマンスを動画により披露し、高校生の思いが豊かに表現された。特にパフォーマンス特別賞を受賞した2チームは、3人で作品世界を表現した演劇によるパフォーマンスや、小説の一節のようなダイアログとともに短歌を発表するパフォーマンスを披露し、審査員からも「歌のニュアンスを心から心に手渡す、非常に高度なパフォーマンス」、「トーク力が素晴らしく、一人で空間を作れる力がある」と、高く評価された。 審査員との質疑応答でも、創作の意図について当意即妙に的確な回答を返すなど、レベルの高いやり取りが見られ、今大会は、高校生がパフォーマンスや質疑応答によって自らの思いを表現し、対戦を通して互いの表現や感性に触れ、刺激しあう、貴重な機会となった。</p>	<p>達成度：達成</p> <p>【成果】 作品を自由なパフォーマンスで発表する方式とし、さらにはパフォーマンス特別賞を設けることで、各チームが工夫を凝らしたパフォーマンスにより、思いを豊かに表現していた。審査員との質疑応答によって、短歌の内容の深さが観客にも伝わり、非常に充実した時間であった。高校生にとって、自己表現力、アピール力を高め、成長する貴重な機会になったのではないと思う。</p>

「アート」 で元気に ～地域づ くり～	「万葉の郷 とっとりけん」の県内 外に向けた PR	<p>県内外ともに昨年度より多くのチーム・学校に応募いただくことを目標として、県内外の高校に広く参加を呼びかけ、本大会への応募を通して、万葉集と本県との繋がりを認識いただく契機とする。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 応募数は170 チーム：18校と、昨年度(242チーム：23校)よりも減少したが、全国に向けて周知を図り、県内外6校から初めて応募があるなど、一定の効果があった。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 県内外の高校に広く参加を呼びかけることにより、県内外6校から初めて応募があるなど、本大会への応募を通して、万葉集と本県との繋がりを一定程度認識してもらった契機となった。</p>
		<p>【課題】 引き続き全国で文芸活動や短歌への取組がある学校の情報を収集し、周知を図るとともに、県内の高校への参加を強化する。</p>	<p>【課題】 コロナ禍の影響もあったのかもしれないが、応募数については、昨年度以上という目標を学校数、チーム数ともに達成できなかった。審査員の方は大変かと思うが、やはり参加校が多い方が企画としても高い目標としても大切だと思う。全国を含め参加校の増加に向けて周知や掘り起こしを工夫して行っていく必要がある。</p> <p>特に、県内高校の参加がまだまだ一部にとどまっている。県として取り組む企画であれば、「万葉の郷とっとりけん」に相応しい発展を期待する。鳥取県内の高校1年生に授業の一環として短歌を詠むことを推進することも考えられる。</p> <p>県外参加校にしても、「万葉集ゆかり」の県に働きかけることが必要。「令和」で話題となった大宰府の福岡県や奈良県など「万葉の郷とっとりけん」をPRする対象は多くあるように思う。</p>	
「アート」 で元気に ～地域づ くり～	「万葉の郷 とっとりけん」の県内 外に向けた PR	<p>昨年度より閲覧者数を増やすことを目標として、当日の動画のYouTubeへの掲載やSNSでの発信により、コロナ禍で来県できない県外の方に対しても、「万葉の郷とっとりけん」をPRする。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 文化政策課の公式Twitter、Facebookでも周知を図ったが、掲載1カ月後のYouTube動画の閲覧者数は昨年度と同程度であった。</p> <p>今回から発表作品と審査員の講評をホームページに掲載し、予選に応募した高校生や当日来場できなかった方とも大会の成果を共有し、次回へとつなげることができた。</p>	<p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】 当日の動画のYouTubeへの掲載や公式Twitter、FacebookなどSNSでの発信により、コロナ禍で会場観覧や来県できない県内外の方に対しても、「万葉の郷とっとりけん」をPRする機会を創出した。YouTubeでの動画閲覧数(ダイジェスト+全篇)では前年度実績を上回った。コロナ禍ではあったが目標とした定量は概ね達成したと思われる。</p>

			<p>【課題】 文化政策課の SNS や広報課が管理する鳥取県の広報用 SNS (Twitter、YouTube 等) を活用し、引き続き積極的に広報していく。</p>	<p>【課題】 YouTube での動画閲覧数 (ダイジェスト+全篇) では前年度実績を上回ったものの目標には届かなかった。様々な媒体を使いつつ、また参加する高校生からも情報が拡散されるような効果的な工夫を実施していくことが必要。 YouTube 動画については、配布のチラシに記載がなく、関係者だけの認知では広がりには期待できない。LINE 広告なども取り入れてみてはどうだろうか？</p>
達成度集計		(14 / 18) ≒ 77.8%	(14 / 18) ≒ 77.8%	

【定量目標・実績】

	目標	実績	(参考) 昨年度実績
アンケート回収率 (%)	50%	87%	50%
観客満足度 (%) (※6)	85%	85%	80%
入場者数 (名) (※7)	30人	15人	10人
YouTube 動画 (ダイジェスト) 再生回数 (回) ※公開後1ヵ月	300回	249回 (令和4年1月27日時点)	253回
YouTube 動画 (全編) 再生回数 (回) ※公開後1ヵ月	100回	102回 (令和4年1月27日時点)	78回

【自己評価総括】

○成果

- 大会への応募については、全国で文芸活動や短歌に取り組んでいる学校の情報を収集し、募集要項等の送付先を増やしたが、応募期間 (6月16日～9月8日) が新型コロナウイルス第5波の緊急事態宣言期間と重なったほか、他県での短歌全国大会 (書面開催) の募集期間が本大会と重なった影響で、応募数は昨年度より減少した (R2: 242 チーム・23校⇒R3: 170 チーム: 18校)。一方で、休校やオンライン授業、部活停止といった厳しい状況の中で作品制作に取り組んでいただいた学校が一定数あったということでもあり、本大会を目標として頑張っているという、嬉しい声もいただいた。
- 前回、終了予定時間を超過した反省を踏まえ、出場チームを8チームから6チームに、試合数を7試合 (準々決勝・準決勝・決勝) から4試合 (準決勝・決勝) に減らしたことで、全体のスケジュールに余裕ができ、審査員からも十分な講評をいただいた上で、時間通りに終わることができた。また、本選大会出場チームは、予選結果発表後、約1ヵ月で本選大会発表用の作品及びパフォーマンスを制作する必要があり、今回は定期試験等の学校行事もある中でスケジュール的に厳しかったという意見もあったが、今回、試合数を減らしたことにより、制作する作品等の数が絞られ、出場チームの負担も軽減することができた。
- 新型コロナ感染拡大防止のため、前回に続き、県外チームはオンライン参加となったものの、審査員は会場に来ていただき、前回は中止となった交流会も、オンラインで実施した。司会は県内の出場チームの高校生が担当し、各チームからの自己紹介に加え、高校生からの質問に審査員が答えるコーナーでは、「短歌づくりに行き詰った時はどうしているか」「短歌を始めたきっかけは」といった率直な質問に対し、審査員の経験や創作のヒントを交えながら、熱心な回答があった。さらに、大会では未発表となった準決勝敗退チームの決勝用の作品一つ一つにコメントをいただくなど、非常に内容の濃いやりとりとなり、コロナ禍で交流の機会が減る中、貴重な体験として、参加チームからも好評であった。
- 大会後の広報として、従来から YouTube でのダイジェスト・全編動画の掲載を実施しているところであるが、特に、審査員の講評が非常に的確で分かりやすく、一人でも多くの方に作品とあわせて鑑賞していただきたいと考え、今回から、各チームの発表作品と講評をホームページに掲載した。動画は、会場の様子を詳細に伝えられる一方、閲覧に一定の時間がかかるが、文字情報は短時間で読むことができ、双方の特徴を生かした広報ができた。審査員からも、こうやって記録で残すことはとてもいいこと、と言っていた。今大会の様子を見て、次は自分たちも参加したいと思ってくれる高校生が増えることを期待している。

○課題

- 来場者数は少なかったものの、アンケートでは、内容に対する評価は高く、取組自体は、短歌の面白さが伝わる、興味深いものになっていると思われるが、その魅力を伝え、実際に会場に足を運んでいただくことに難しさを感じている。今後参集開催となる場合は、これまでの大会の様子や短歌の魅力を分かりやすく紹介するなど、来場者数の

確保に向けた積極的な広報が必要である。

- ・県高文連の文芸部門で夏休みに短歌の講座を企画され、県内高校生の参加に向けていきっかけになるものと期待していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で残念ながら中止となった。引き続き県内の高校生への働きかけを続けるとともに、万葉集や短歌に関係する各団体との連携を図りながら、県内外への広がりを図っていく必要がある。

【委員評価総括】

○成果

- ・コロナ禍の中でも、県内外の高校生の表現活動の機会を設けたこと、またトーナメント方式での団体戦や、パフォーマンスによる発表を取り入れ、他の短歌大会との差別化を図るとともに、著名な歌人を審査員として迎え発表者への質疑応答を通じて作品への理解が深まるよう工夫するなど、短歌に詳しくない人にもその面白さが伝わる見応えのある大会となり、来場者や参加した高校生の評価も高かった。高校生をはじめとする県内外の方に万葉集や短歌といった伝統文化に親しむ機会、「万葉の郷とっとりけん」をPRする機会の創出につなげる機会となったことは大きな成果である。
- ・新たな取り組みとして開催された大会後の交流会では、日頃の活動状況の共有や、意見交換、審査員から創作に関するアドバイスをもらうなど、短歌に関わる高校生の人材育成、県内高校生と全国高校生の出会い、交流の場となるなど成果があった。コロナ収束後に高校生が本県に集まれるようになること、より充実したものになることを、心より期待したい。
- ・当日の様子を記録した動画のYouTubeへの公開は、大会の広報・周知に役立つばかりでなく、現在の高校生の表現活動の記録として貴重である。年度ごとにただ大会を実施するだけではなく、今後も継続していく中で発表された短歌やパフォーマンスの記録を蓄積していくことが、鳥取の芸術文化の発展のためには重要であろう。

○課題

- ・入場者数は実績が目標値に達しなかった。広報をもっと充実させてほしい。引き続き県内の高校生への働きかけを続けるとともに、万葉集や短歌に関係する関係団体や県内外の同種大会関係者との連携を図りながら、県内外への広がりを図っていく必要がある。
- ・中部地区の知り合いの高校生は、この企画を全く知っていなかった。県内高校すべてへのアプローチが足りないように思う。FacebookやTwitterだけでなく、LINE広告などもご検討いただければと思う。鳥取東高だけをベースにするのではなく、中・西部への働きかけも期待したい。
- ・審査員のコメントが明快であった一方、最終的な勝敗や賞の評価基準については不明瞭な点もあった。(短歌とパフォーマンスでそれぞれの配点がどのように決定されているのか。など。)また全体の応募数から見て、鳥取県内の高校が審査においてやや優遇されているように見えることについても、今後不公平感を感じる参加者や観客が出てくるかもしれない。一定の評価基準をあらかじめ提示することが望ましい。

○その他事業に関する意見、感想など

- ・今回、評価委員となり、この企画を知った。第3回と回数を重ねているにもかかわらず認知していなかった事が残念に感じている。大会視察の機会をいただき、感謝している。本当に良い企画であると感じた。16~18歳の十代でしか感じる事のできない風景や感性に感動した。だからこそ、県内高校生すべてに生涯一度になっても良いので短歌を詠んでほしいと感じた。また、一流の歌人である審査員の方々のコメントもとてもよかった。もっと多くの方々に知っていただきたいと強く思った。オンラインでの県外高校の参加もコロナ禍だけでなく今後のあり方として生徒たちの負担が少なく良いと思った。
- ・パフォーマンスの取り組みは、単に作品を読み上げるだけのチームもあったが、各チームがアイデアや工夫を凝らして思いを豊かに表現することにつなげるなど、高校生が自己表現力、アピール力を高め、成長する機会になっている。ウェブサイトチームがパフォーマンスを作るときに参考になるようなパフォーマンス例を集めた動画コンテンツを載せてはどうだろうか。
- ・地元鳥取出身で活躍されている歌人もおられるので、短歌を高校生に身近なものとしてとらえてもらえるようなアドバイスを得られないだろうか。
- ・今回から発表作品と審査員の講評をホームページに掲載し、予選に応募した高校生や当日来場できなかった方とも大会の成果を共有できるようになったが、万葉集と本県との繋がりを認識してもらい「万葉の郷とっとりけん」をPRしていく点からも、例えば主催者(知事)あいさつやつながりを詳しく説明したページへのリンクなども掲載してはどうか。

(参考)

鳥取県文化芸術事業評価委員会委員名簿（令和3年度事業評価）

氏名	所属等	備考
石谷 依利子	砂丘 YOGA 代表	
嘉賀 収司	境港市民図書館館長	
門脇 明子	音楽家	
川口 朋子	DANCE for REAL 代表	
小林 圭子	ミュージック・オフィス ♪DoReMi 代表	
近藤 映子	鳥取市文化団体協議会理事、元鳥取女声合唱団団長	
佐々木 友輔	鳥取大学地域学部附属芸術文化センター講師	副会長
谷口 博教	元総務省島根行政評価事務所長	
南家 久光	米子文学事務所	会長
野川 貴代子	米子市文化協議会	
山本 仁志	前鳥取県教育長	

※令和4年7月末時点

事業別評価報告書執筆担当一覧

番号	事業名	主体	団体名	実施日	実地検証 委員数	執筆担当
1	第19回鳥取県総合芸術文化祭・ とりアート2021 東部地区事業	鳥取県総合 芸術文化祭 実行委員会	東部地区企画 運営委員会	令和3年 11月13日(土) ～14日(日)	4	南家委員 石谷委員
2	第19回鳥取県総合芸術文化祭・ とりアート2021 中部地区事業		中部地区企画 運営委員会	令和3年 11月20日(土) ～21日(日)	5	谷口委員 山本委員
3	第19回鳥取県総合芸術文化祭・ とりアート2021 西部地区事業		西部地区企画 運営委員会	令和3年 11月20日(土) ～21日(日)	4	嘉賀委員 山本委員
4	第12回とっとり伝統芸能まつり	鳥取県	地域づくり推進部 文化政策課	令和3年 12月5日(日)	5	門脇委員 野川委員
5	第65回鳥取県美術展覧会			令和3年 9月18日(土) ～11月23日(火)	10	南家委員 佐々木委員
6	第3回万葉の郷とっとりけん全国 高校生短歌大会			令和3年 11月7日(日)	3	佐々木委員 小林委員

評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	令和3年 6月10日(木)	1. 報告事項 評価委員の退任について 2. 協議事項 (1) 令和2年度評価報告書について ア 事業別評価報告書案について イ 総合評価について (2) 令和3年度事業評価について ア 評価方針及び評価方法について イ 評価対象事業(案)について
第2回	令和3年8月 ※書面審議	1 報告事項 ア 評価委員の就退任について 2 協議事項 (1) 令和3年度の事業評価について ア 評価方針及び評価方法について イ 評価事業の選定について ウ 評価事業の現地検証・執筆担当について (2) その他
第3回	令和4年 3月23日(木)	(1) 協議事項 ア 令和3年度評価報告書(案)について (2) 事務連絡 ア 次回評価委員会等の開催について イ その他

鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

(目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

(委員会の任務)

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- (5) 被評価者が作成する改善計画の承認

(委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

- 2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

(組織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

- 2 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

(会長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(任期)

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることがある。

(会議)

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあつては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県地域づくり推進部文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成28年2月5日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和元年7月24日から施行する。

令和3年度鳥取県文化芸術事業評価報告書

令和4年7月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会(事務局:鳥取県地域づくり推進部文化政策課内)

電話:0857-26-7839

ファクシミリ:0857-26-8108